

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

| 事業名 | 介護予防対象者把握事業（二次予防対象者把握事業） | | | | 事業期間 | 平成 25 年度 ～ 年度 | | | | 所管課係 | 介護福祉課高齢者支援係 |
|--------------------------|---|-------|----|--------|------|------------------------|--|-------|------------|------|-------------|
| | 事業性質区分 | 新規・継続 | 新規 | 建設・建設外 | | 建設外 | 第6期総合計画の位置付け | 2-1-2 | 他に関連する基本事業 | | |
| 目的 (向のために実施するのか) | 二次予防事業の対象者を把握し、対象者に対して介護予防の方法を提示することにより、要介護状態等となることを予防する。 | | | | | 手段 (どのような方法で実現するのか) | 対象となる高齢者に対して基本チェックリストを実施する。 | | | | |
| 対象 (誰・何を対象としているのか) | 介護認定を受けていない65歳以上の高齢者で、次により抽出した高齢者 ①「地域高齢者見守り事業」により把握した「日常生活で心配な高齢者」及び「状況のわからない高齢者」②介護予防教室に参加した高齢者③介護認定審査会において非該当となった高齢者④本人または家族及び医療機関等から相談のあった高齢者 | | | | | 成果 (どのような効果が得られるのか) | 基本チェックリストの実施により把握した二次予防事業対象者に対して、生活機能低下に係るアセスメント（原因及び課題の分析）の実施及び目標を設定し、介護予防教室や地域サロンへの参加を促すことなどにより要介護状態等となることを防ぐ。 | | | | |
| 事業開始時の状況・これまでの経緯（行革内容含む） | 二次予防事業対象者については、平成24年度まで「生活機能評価事業」として、ふれあいセンターが後期高齢者健診受診者及び介護予防教室参加者に対し基本チェックリストを実施して把握してきたほか、地域包括支援センターにおける相談業務の際に基本チェックリストを実施して把握してきたが、効果的な把握に結び付きにくい状況だったことから、平成25年度から実施した「地域高齢者見守り事業」により把握する高齢者（一人暮らしの高齢者、日常生活で心配な高齢者、状況のわからない高齢者）、介護予防教室参加者及び介護認定審査会において非該当となった高齢者に対して基本チェックリストを実施するほか、地域包括支援センターの相談業務の際に基本チェックリストを実施して二次予防事業対象者を把握することとした。なお、事業の実施に当たっては、「地域高齢者見守り事業」において重要な役割を担う地域包括支援センター（一般社団法人北海道総合在宅ケア事業団）へ業務を委託する。平成28年1月より、事業名称が「介護予防対象者把握事業」に変更となった。 | | | | | | | | | | |

【DO】

実績

（単位：円）

| | | 第1次実施3カ年計画 | | | | 第2次実施3カ年計画 | | | | 第3次実施4カ年計画 | | | | 第6期 総合計画 合計 | |
|-------------|---------------------|----------------|----------------|----------------|-------------|----------------------------|----------------|----------------|---------------|----------------|----------------------|--------------------|-----------------|-------------------|-------------|
| | | 第1年次 (23年度) | 第2年次 (24年度) | 第3年次 (25年度) | 実施3カ年 合計 | 第4年次 (26年度) | 第5年次 (27年度) | 第6年次 (28年度) | 実施3カ年 合計 | 第7年次 (29年度) | 第8年次 (30年度) | 第9年次 (31・R元年度) | 第10年次 (R2年度) | | 実施4カ年 合計 |
| 投入された事業費の推移 | 国費 | 計画額 | | | 0 | 2,899,000 | 2,899,000 | 2,899,000 | 8,697,000 | 1,134,000 | 1,134,000 | 1,134,000 | 1,134,000 | 4,536,000 | 13,233,000 |
| | | 予算計上額 | | | 0 | 1,933,000 | 1,136,000 | 1,134,000 | 4,203,000 | 1,142,000 | 988,000 | 978,000 | 950,000 | 4,058,000 | 8,261,000 |
| | | 実績額 | | | 0 | 1,932,000 | 1,136,705 | 1,133,828 | 4,202,533 | 1,142,323 | 988,719 | 957,974 | 949,916 | 4,038,932 | 8,241,465 |
| | 道費 | 計画額 | | | 0 | | | | 0 | 567,000 | 567,000 | 567,000 | 567,000 | 2,268,000 | 2,268,000 |
| | | 予算計上額 | | | 0 | 966,000 | 568,000 | 567,000 | 2,101,000 | 571,000 | 494,000 | 489,000 | 475,000 | 2,029,000 | 4,130,000 |
| | | 実績額 | | | 0 | 966,000 | 568,352 | 566,914 | 2,101,266 | 571,161 | 494,359 | 478,987 | 474,958 | 2,019,465 | 4,120,731 |
| | 地方債 | 計画額 | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | | 予算計上額 | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | | 実績額 | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | その他 | 計画額 | | | 0 | 3,866,000 | 3,866,000 | 3,866,000 | 11,598,000 | 2,268,000 | 2,268,000 | 2,268,000 | 2,268,000 | 9,072,000 | 20,670,000 |
| | | 予算計上額 | | | 0 | 3,866,000 | 2,273,000 | 2,268,000 | 8,407,000 | 2,285,000 | 1,977,000 | 1,957,000 | 1,900,000 | 8,119,000 | 16,526,000 |
| | | 実績額 | | | 0 | 3,865,000 | 2,273,412 | 2,267,657 | 8,406,069 | 2,284,647 | 1,977,438 | 1,915,948 | 1,899,832 | 8,077,865 | 16,483,934 |
| | 一般財源 | 計画額 | | | 0 | 967,000 | 967,000 | 967,000 | 2,901,000 | 567,000 | 567,000 | 567,000 | 567,000 | 2,268,000 | 5,169,000 |
| | | 予算計上額 | | | 0 | 967,000 | 570,000 | 567,000 | 2,104,000 | 572,000 | 496,000 | 490,000 | 475,000 | 2,033,000 | 4,137,000 |
| | | 実績額 | | | 0 | 968,900 | 568,352 | 566,916 | 2,104,168 | 571,163 | 494,361 | 478,987 | 474,958 | 2,019,469 | 4,123,637 |
| | 事業費合計 | 計画額 | 0 | 0 | 0 | 7,732,000 | 7,732,000 | 7,732,000 | 23,196,000 | 4,536,000 | 4,536,000 | 4,536,000 | 4,536,000 | 18,144,000 | 41,340,000 |
| | | 予算計上額 | 0 | 0 | 0 | 7,732,000 | 4,547,000 | 4,536,000 | 16,815,000 | 4,570,000 | 3,955,000 | 3,914,000 | 3,800,000 | 16,239,000 | 33,054,000 |
| | | 実績額 | 0 | 0 | 0 | 7,731,900 | 4,546,821 | 4,535,315 | 16,814,036 | 4,569,294 | 3,954,877 | 3,831,896 | 3,799,664 | 16,155,731 | 32,969,767 |
| 事業費予算の内容 | 委託料 | | | | 委託料 | 委託料 | 委託料 | | 委託料 | 委託料 | 委託料 | 委託料 | | | |
| | 前年度予算との比較 (増減理由) | | | | | 一部費目移動による減（その他人件費→包括的支援事業） | 事業費の一部見直しによる減 | | 人件費の一部見直しによる増 | 人件費の一部見直しによる減 | 人件費の一部見直しによる減 | 人件費及び事業費の一部見直しによる減 | | | |
| | 実績との比較 (増減理由) | | | | | 同額 | 同額 | | 同額 | 同額 | 人件費の減少 3月補正 △82千円 | 同額 | | | |

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

| | | |
|---------------------|-------------------|---|
| 活動指標 1 (「手段」をもとに設定) | 指標名：基本チェックリスト実施人数 | 指標の求め方：基本チェックリストを実施した高齢者の人数 |
| 成果指標 1 (「成果」をもとに設定) | 指標名：二次予防事業参加者数 | 指標の求め方：二次予防事業に参加した高齢者の数 (65歳以上高齢者の1.0%) |

| 指標 | 活動指標 1 (単位/回) | 計画値 | 実績値 | 1,400 | 737 | 1,400 | 326 | 1,400 | 461 | | 1,400 | 315 | 1,400 | 607 | 1,400 | 274 | 1,400 | 332 | |
|----------------|---------------------------------------|---|-------|-------|-------|--|--|--|---|---|---|--|---|---|-------|-----|-------|-------------|---------------|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 成果指標 1 (単位/人) |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業 評価 内容 | 事業の達成度 (活動指標をもとに評価) | | | | | | | | | あまり達成されていない | | | | | | | | あまり達成されていない | |
| | 事業の成果 (成果指標をもとに評価) | | | | | | | | | あまり上がっていない | | | | | | | | あまり上がっていない | |
| | 事業の効率性 (事業費に対する成果) | | | | | | | | | 変わらない | | | | | | | | 変わらない | |
| | 総合評価 | | | | | | | | | 普通である | | | | | | | | 普通である | |
| | 総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析 | 自己分析： | 自己分析： | 自己分析： | 判断理由： | 自己分析： 高齢者見守り事業においてチェックリストの実施を拒否する者がいたり、二次予防事業への参加者が想定よりも下回り、計画数値を下回ったが、要介護等の防止につながるから今後も必要な事業と考える。今後は、チェックリストを実施する機会を増やすことや二次予防事業の参加者を増やすための手段を検討する必要がある。 | 自己分析： 高齢者見守り事業による高齢者の訪問がひと段落したことにより、その際行ってきたチェックリストの実施が減少した結果、二次予防事業への参加者が想定よりも下回り、計画数値を下回ったが、要介護等の防止につながるから今後も必要な事業と考える。今後は、改めてチェックリストを実施することや一般介護予防事業の参加者を増やすための方法を検討する必要がある。 | 自己分析： 高齢者見守り事業による高齢者の訪問がひと段落したことにより、その際行ってきたチェックリストの実施が減少し、二次予防事業への参加者数が計画数値を下回ったが昨年の数値は上回っており、要介護等の防止につながるから今後も必要な事業と考える。今後も、引き続きチェックリストを実施することや一般介護予防事業の参加者を増やすための方法を検討する必要がある。 | 判断理由： 本事業は高齢者の要介護等の防止につながるから今後も必要な事業であるが、一般介護予防事業の参加者やチェックリストの実施機会を増やす方法を検討するため、普通とであるとした。 | 自己分析： 高齢者見守り事業による高齢者の訪問よりも地域協議を重点的に実施したため、訪問の際行ってきたチェックリストの実施が減少し、二次予防事業への参加者数が計画数値を下回ったが、要介護等の防止につながるから今後も必要な事業と考える。今後も、引き続きチェックリストを実施することや一般介護予防事業の参加者を増やすための方法を検討する必要がある。 | 自己分析： 前年度までの地域協議を基に見守りが必要とされた高齢者の訪問と併せて、初回訪問から5年以上経過している世帯や提供拒否世帯の再訪問を行ったため、訪問の際併せて行っていたチェックリストの実施が増加した。二次予防事業への参加者数は計画数値を下回ったが、要介護等の防止につながるから今後も必要な事業と考える。今後も、引き続きチェックリストを実施することや一般介護予防事業の参加者を増やすための方法を検討する必要がある。 | 自己分析： 高齢者見守り事業による高齢者の訪問件数減少に伴い、訪問の際併せて行っているチェックリストの実施が減少した。二次予防事業への参加者数についても計画数値を下回ったが、要介護等の防止につながるから今後も必要な事業と考える。今後も、引き続きチェックリストを実施することや一般介護予防事業の参加者を増やすための方法を検討する必要がある。 | 自己分析： 前年度までの地域協議を基に見守りが必要とされた高齢者の訪問と併せて、初回訪問から5年以上経過している世帯や提供拒否世帯の再訪問を行ったため、訪問の際併せて行っていたチェックリストの実施が増加した。二次予防事業への参加者数は計画数値を下回ったが、要介護等の防止につながるから今後も必要な事業と考える。今後も、引き続きチェックリストを実施することや一般介護予防事業の参加者を増やすための方法を検討する必要がある。 | 判断理由： 本事業は高齢者の要介護等の防止につながるから今後も必要な事業であるが、一般介護予防事業の参加者やチェックリストの実施機会を増やす方法を検討するため、普通とであるとした。 | | | | | |
| | 今後の方向性 | | | | | | | | | 現状のまま継続 | | | | | | | | 現状のまま継続 | |
| | 方向性の判断理由 改善、改革の内容 (H25、H28、H30) | H25： | | | | H28： | | | | H30： | | | | | | | | | |
| | | H25： 本事業は、一般介護予防事業の参加者やチェックリストの実施機会を増やす等一部検討が必要な部分はあるが、高齢者の要介護等の防止につながるから今後も必要な事業であるため、現状のまま継続と判断した。 | | | | H28： 本事業は、一般介護予防事業の参加者やチェックリストの実施機会を増やす等一部検討が必要な部分はあるが、高齢者の要介護等の防止につながるから今後も必要な事業であるため、現状のまま継続と判断した。 | | | | H30： 本事業は、一般介護予防事業の参加者やチェックリストの実施機会を増やす等一部検討が必要な部分はあるが、高齢者の要介護等の防止につながるから今後も必要な事業であるため、現状のまま継続と判断した。 | | | | | | | | | |

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

| | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------------|--|----|--------|-----|--------------|---------------|------------------------|-------|---|---|---|---|------|-------------|
| 事業名 | 通年介護予防教室いきいきシニアプログラム改善事業 | | | | 事業期間 | 平成 26 年度 ～ 年度 | | | | | | | | |
| 事業性質区分 | 新規・継続 | 新規 | 建設・建設外 | 建設外 | 第6期総合計画の位置付け | 2-1-2 | 他に関連する基本事業 | 2-5-1 | - | - | - | - | 所管課係 | 介護福祉課高齢者支援係 |
| 目的 (何のために実施するのか) | 高齢者を迎えていきいきと生活することができる社会の実現を図るため、運動器の衰えを防ぐ運動を中心としたプログラムを提供し、介護予防を推進する。 | | | | | | 手段 (どのような方法で実現するのか) | | 年間を通じて毎週1回、新砂川農業協同組合2階の多目的ホールを会場として実施する。内容は、健康チェックと運動器の衰えを防ぐ運動を毎回実施、このほか服薬管理や口腔機能向上についての健康教育等を追加する。随時参加を可能とし、期間は6か月で24回を原則とする。終了後は、身近な場所でのサロン等に繋げていく。 | | | | | |
| 対象 (誰・何を対象としているのか) | 二次予防事業対象者及び一次予防事業対象者。平成28年1月から、介護保険制度の改正により、「介護予防・日常生活支援総合事業」に移行したことから、一般介護予防対象者に変更となった。 | | | | | | 成果 (どのような効果が得られるのか) | | 閉じこもりや要介護状態になることを予防し、生活の質の向上を図る機会が確保できる。 | | | | | |
| 事業開始時の状況・これまでの経緯 (行革内容含む) | 老人保健法に基づき、ふれあいセンターにて脳卒中後遺症者等を対象に機能回復訓練事業（リハビリ教室）を実施してきたが、介護保険法の制定により、参加者の多くは介護保険サービス（デイサービス・デイケア）へ移行した。平成18年には地域支援事業が創設され、介護予防事業の実施が義務付けられ、平成18年度はリハビリ教室を介護予防事業として実施していたが、事業の見直しにより平成19年度にはリハビリ教室を終了し、新たに介護予防教室として実施するに至った。当初は、年2クールをふれあいセンターで実施していたが、教室終了後も地域に運動を継続する場が必要であることから、平成23年度より1クールを地域開催として実施してきた。その結果、各地区にサロン活動が誕生し、身近な場所での運動を継続することができるようになってきている。平成25年度より、地域包括支援センターを中心とした二次予防対象者把握事業が開始され、随時介護予防事業につなげていく体制が必要となることから、平成26年度から介護福祉課が所管となり通年型介護予防教室に転換して現在に至る。 | | | | | | | | | | | | | |

【DO】

実績

(単位：円)

| | | 第1次実施3カ年計画 | | | | 第2次実施3カ年計画 | | | | 第3次実施4カ年計画 | | | | 第6期 総合 計画 計 | | |
|-------------|---------------------|----------------|----------------|----------------|--------------|----------------|----------------|----------------|--------------|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------|----------------------|--------------|-----------|
| | | 第1年次 (23年度) | 第2年次 (24年度) | 第3年次 (25年度) | 実施3カ年 合 計 | 第4年次 (26年度) | 第5年次 (27年度) | 第6年次 (28年度) | 実施3カ年 合 計 | 第7年次 (29年度) | 第8年次 (30年度) | 第9年次 (31・R元年度) | 第10年次 (R2年度) | | 実施4カ年 合 計 | |
| 投入された事業費の推移 | 国 費 | 計 画 額 | | | | 0 | | | | 0 | 626,000 | 626,000 | 626,000 | 626,000 | 2,504,000 | 2,504,000 |
| | | 予 算 計 上 額 | | | | 0 | | | | 0 | 615,000 | 617,000 | 614,000 | 615,000 | 2,461,000 | 2,461,000 |
| | | 実 績 額 | | | | 0 | | | | 0 | 590,157 | 579,935 | 541,200 | 413,231 | 2,124,523 | 2,124,523 |
| | 道 費 | 計 画 額 | | | | 0 | | | | 0 | 313,000 | 313,000 | 313,000 | 313,000 | 1,252,000 | 1,252,000 |
| | | 予 算 計 上 額 | | | | 0 | | | | 0 | 307,000 | 308,000 | 307,000 | 307,000 | 1,229,000 | 1,229,000 |
| | | 実 績 額 | | | | 0 | | | | 0 | 295,078 | 289,967 | 270,600 | 206,615 | 1,062,260 | 1,062,260 |
| | 地 方 債 | 計 画 額 | | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | | 予 算 計 上 額 | | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | | 実 績 額 | | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | そ の 他 | 計 画 額 | | | | 0 | | | | 0 | 1,253,000 | 1,253,000 | 1,253,000 | 1,253,000 | 5,012,000 | 5,012,000 |
| | | 予 算 計 上 額 | | | | 0 | | | | 0 | 1,231,000 | 1,234,000 | 1,228,000 | 1,230,000 | 4,923,000 | 4,923,000 |
| | | 実 績 額 | | | | 0 | | | | 0 | 1,180,315 | 1,159,871 | 1,082,401 | 826,463 | 4,249,050 | 4,249,050 |
| 一 般 財 源 | 計 画 額 | | | | 0 | | | | 0 | 314,000 | 314,000 | 314,000 | 314,000 | 1,256,000 | 1,256,000 | |
| | 予 算 計 上 額 | | | | 0 | | | | 0 | 309,000 | 310,000 | 307,000 | 309,000 | 1,235,000 | 1,235,000 | |
| | 実 績 額 | | | | 0 | | | | 0 | 295,080 | 289,969 | 270,602 | 206,615 | 1,062,266 | 1,062,266 | |
| 事 業 費 合 計 | 計 画 額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,506,000 | 2,506,000 | 2,506,000 | 2,506,000 | 10,024,000 | 10,024,000 | |
| | 予 算 計 上 額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,462,000 | 2,469,000 | 2,456,000 | 2,461,000 | 9,848,000 | 9,848,000 | |
| | 実 績 額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,360,630 | 2,319,742 | 2,164,803 | 1,652,924 | 8,498,099 | 8,498,099 | |
| 移 | 事業費予算の内容 | | | | | | | | | 報償費、需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料 | 報償費、需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料 | 報償費、需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料 | 報償費、需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料 | | | |
| | 前年度予算との比較 (増減理由) | | | | | | | | | | 専門職の報償費の増額による増 | 専門職の報償費の減額による減 | 消費税増税による委託料の増 | | | |
| | 実績との比較 (増減理由) | | | | | | | | | 報償費の一部及び会場費の未執行による減 3月補正 △25千円 | 報償費の一部及び会場費の未執行による減 3月補正 △25千円 | 報償費の一部及び会場費の未執行による減 3月補正 △44千円 | 報償費の一部及び会場費の未執行による減 3月補正 △760千円 | | | |

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

| | | |
|---------------------|-----------|-----------------|
| 活動指標 1 (「手段」をもとに設定) | 指標名：実施回数 | 指標の求め方：事業の実施回数 |
| 成果指標 1 (「成果」をもとに設定) | 指標名：参加延人数 | 指標の求め方：事業の参加延人数 |

| 指標 | 活動指標 1 (単位/回) | 計画値 | | | | | | | | 48 | 48 | 48 | 48 | | |
|---------------------------------------|----------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--|-------|-------|-------|-------|-------|---------|
| | 実績値 | | | | | | | | | 48 | 48 | 44 | 33 | | |
| 指標 | 成果指標 1 (単位/人) | 計画値 | | | | | | | | 800 | 800 | 800 | 800 | | |
| | 実績値 | | | | | | | | | 658 | 520 | 531 | 230 | | |
| 事業 評価 | 事業の達成度 (活動指標をもとに評価) | | | | | | | | | | | | | | 達成されている |
| | 事業の成果 (成果指標をもとに評価) | | | | | | | | | | | | | | 変わらない |
| | 事業の効率性 (事業費に対する成果) | | | | | | | | | | | | | | 変わらない |
| | 総合評価 | | | | | | | | | | | | | | 良好である |
| | 総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析 | 自己分析： | 自己分析： | 自己分析： | 判断理由： | 自己分析： | 自己分析： | 自己分析： | 判断理由： | 自己分析： | 自己分析： | 自己分析： | 自己分析： | 判断理由： | 自己分析： |
| 今後の方向性 | | | | | | | | | | | | | | | 現状のまま継続 |
| 方向性の判断理由 改善、改革の内容 (H25、H28、H30) | H25： | | | | H28： | | | | H30： 参加者が要介護状態になることや閉じこもりの防止につながっているため、必要な事業と考える。今後、参加者を増やすための周知方法を検討する必要がある。 | | | | | | |

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 査

【PLAN】

事務事業の目的と成果

| 事業名 | いきいき運動推進事業 | | | | 事業期間 | 平成 18 年度 ~ 一 年度 | | | | | | 所管課係 | ふれあいセンター保健予防係 | |
|------------------------------|---|-------|----|--------|------|------------------------|--------------|--|------------|-------|-------|------|---------------|---|
| | 事業性質区分 | 新規・継続 | 継続 | 建設・建設外 | | 建設外 | 第6期総合計画の位置付け | 2-1-2 | 他に関連する基本事業 | 2-1-1 | 2-5-1 | | | - |
| 目的 (何のために実施するのか) | 地域における介護予防を効果的に推進していくためには、一人ひとりの健康づくりに対する自動努力と併せて、地域住民が主体となった地域ぐるみの取り組みも重要である。高齢者の健康づくりを推進していくために、地域で住民のリーダーとなって活動する運動推進員を養成し、その活動を支援していくことで、地域での運動習慣の普及・啓発を図り、健康づくりと介護予防を推進していく。 | | | | | 手段 (どのような方法で実現するのか) | | 養成講座は、平成18年度・21年度に実施。2ヵ月間全10回程度で、各種講義・運動実技・調理実習等を行い講座修了者には、いきいき運動推進員認定証を授与する。養成講座終了後は、推進員として、いきいき広場や老人クラブ、町内会、高齢者住居などで運動の提供をボランティアで行なう。推進員の活動を支援するため、月1回の交流会とスキルアップのための研修会を実施する。 | | | | | | |
| 対象 (誰・何を対象としているのか) | いきいき運動推進員養成講座の対象は、介護予防のための運動に関心があり、運動推進員として地域で活動しようと意欲のある市民。いきいき運動推進員支援事業は養成講座修了者を対象とする。 | | | | | 成果 (どのような効果が得られるのか) | | 地域で高齢者に対して運動習慣の普及啓発を实践を通して行なうことにより、高齢者の運動機能の向上や、閉じこもり予防など介護予防につながっていく。また、運動推進員自身にとっても運動を継続する機会であったり、活動自体が生きがいづくりにつながっていく。 | | | | | | |
| 事業開始時の状況・これまでの経緯 (行革内容含む) | 平成18年に創設された地域支援事業の中の一般高齢者施策として事業を開始。高齢者の実態調査や介護認定者の原因疾患調査等により、介護予防を推進していくためには、運動器の機能向上や閉じこもり予防を地域の中で継続して実施していくことが重要となることから、これらを効果的に実施するための方策として本事業に取り組み始めた。 養成講座は平成18年、21年、24年、27年に実施している。 平成28年度より、サロン支援活動の充実を図るため、砂川市立病院リハビリ科講師に介護予防講話を依頼する。 「介護予防・日常生活支援総合事業」の一般介護予防事業における通所型サービスBのボランティアが有償であるため、平成29年度より、サロン活動で活動する推進員に報償費を支給する。 平成30年度には、老人クラブやサロン活動の参加者が、「いきいき体操」について学び、参加者が自主的に運動を展開できるよう「いきいき体操サポーター養成講座」を実施する。 令和元年度は、サポーター養成講座で配布したDVDの改良版（ver2）の「いきいき体操サポーター研修会」を実施する。 | | | | | | | | | | | | | |

【DO】

実績

(単位：円)

| | | 第1次実施3カ年計画 | | | | 第2次実施3カ年計画 | | | | 第3次実施4カ年計画 | | | | 第6期 総合計画 合計 | | |
|---------------------|------------------|----------------|------------------------------------|-----------------------------------|-------------|--------------------|---|---|-------------------------------------|----------------|-------------------------------|------------------------------|------------------------------------|--|-------------|-----------|
| | | 第1年次 (23年度) | 第2年次 (24年度) | 第3年次 (25年度) | 実施3カ年 合計 | 第4年次 (26年度) | 第5年次 (27年度) | 第6年次 (28年度) | 実施3カ年 合計 | 第7年次 (29年度) | 第8年次 (30年度) | 第9年次 (31・R元年度) | 第10年次 (R2年度) | | 実施4カ年 合計 | |
| 投入された事業費の推移 | 国費 | 計画額 | 15,000 | 31,000 | 15,000 | 61,000 | 55,000 | 67,000 | 22,000 | 144,000 | 77,000 | 132,000 | 77,000 | 100,000 | 386,000 | 591,000 |
| | | 予算計上額 | 15,000 | 45,000 | 15,000 | 75,000 | 37,000 | 119,250 | 49,000 | 205,250 | 77,000 | 105,000 | 64,750 | 67,750 | 314,500 | 594,750 |
| | | 実績額 | 0 | 30,000 | 15,000 | 45,000 | 26,400 | 54,797 | 27,080 | 108,277 | 55,610 | 70,651 | 35,577 | 32,737 | 194,575 | 347,852 |
| | 道費 | 計画額 | 7,000 | 15,000 | 7,000 | 29,000 | | | | 0 | 38,000 | 66,000 | 38,000 | 48,000 | 190,000 | 219,000 |
| | | 予算計上額 | 7,500 | 22,000 | 7,000 | 36,500 | 18,000 | 59,625 | 24,000 | 101,625 | 38,000 | 53,000 | 32,375 | 33,875 | 157,250 | 295,375 |
| | | 実績額 | 0 | 15,000 | 7,000 | 22,000 | 13,200 | 27,398 | 13,540 | 54,138 | 27,805 | 35,326 | 17,789 | 16,369 | 97,289 | 173,427 |
| | 地方債 | 計画額 | | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | | 予算計上額 | | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | | 実績額 | | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | その他 | 計画額 | 31,000 | 63,000 | 31,000 | 125,000 | 75,000 | 90,000 | 30,000 | 195,000 | 155,000 | 264,000 | 155,000 | 200,000 | 774,000 | 1,094,000 |
| | | 予算計上額 | 30,000 | 90,000 | 30,000 | 150,000 | 75,000 | 238,500 | 99,000 | 412,500 | 156,000 | 210,000 | 129,500 | 135,500 | 631,000 | 1,193,500 |
| | | 実績額 | 0 | 60,000 | 30,000 | 90,000 | 52,800 | 109,594 | 54,160 | 216,554 | 111,220 | 141,303 | 71,155 | 65,475 | 389,153 | 695,707 |
| | 一般財源 | 計画額 | 7,000 | 15,000 | 7,000 | 29,000 | 21,000 | 23,000 | 8,000 | 52,000 | 39,000 | 66,000 | 39,000 | 52,000 | 196,000 | 277,000 |
| | | 予算計上額 | 7,500 | 23,000 | 8,000 | 38,500 | 21,000 | 59,625 | 26,000 | 106,625 | 38,000 | 53,000 | 32,375 | 33,875 | 157,250 | 302,375 |
| | | 実績額 | 0 | 15,000 | 8,000 | 23,000 | 13,200 | 27,399 | 13,540 | 54,139 | 27,805 | 35,326 | 17,789 | 16,369 | 97,289 | 174,428 |
| 事業費合計 | 計画額 | 60,000 | 124,000 | 60,000 | 244,000 | 151,000 | 180,000 | 60,000 | 391,000 | 309,000 | 528,000 | 309,000 | 400,000 | 1,546,000 | 2,181,000 | |
| | 予算計上額 | 60,000 | 180,000 | 60,000 | 300,000 | 151,000 | 477,000 | 198,000 | 826,000 | 309,000 | 421,000 | 259,000 | 271,000 | 1,260,000 | 2,386,000 | |
| | 実績額 | 0 | 120,000 | 60,000 | 180,000 | 105,600 | 219,188 | 108,320 | 433,108 | 222,440 | 282,606 | 142,310 | 130,950 | 778,306 | 1,391,414 | |
| 事業費予算の内容 | 報償費 | | 報償費 | 報償費 | | 報償費 | 報償費 | 報償費 | | 報償費 | 報償費 | 報償費 | 報償費 | | | |
| | 消耗品費 | | | | | 消耗品費 | 消耗品費 | 消耗品費 | | 消耗品費 | 消耗品費 | 消耗品費 | 消耗品費 | | | |
| | 印刷製本費 | | | | | 印刷製本費 | 印刷製本費 | 印刷製本費 | | 印刷製本費 | 印刷製本費 | 印刷製本費 | 印刷製本費 | | | |
| 前年度予算との比較 (増減理由) | | 前年度同額 | 養成講座実施分の増 | 養成講座実施分を減額 | | いきいき運動推進員Tシャツ作成費の増 | いきいき運動推進員養成講座実施のため増額 | 養成講座実施分を減額 | | 報償費の増 | いきいき体操サポーター養成講座の報償費とTシャツ作成費の増 | いきいき体操サポーター研修会の報償費とTシャツ作成費の減 | いきいき運動推進員Tシャツ作成費の増 | | | |
| | 実績との比較 (増減理由) | | 推進員の活動状況に合わせ、講師を呼ばない研修内容としたため減額した。 | 現推進員の研修を養成講座に併せて実施したため報償費が減額となった。 | 同額 | | 2回予定していた研修を1回としたこと、Tシャツの枚数を減らしたことにより減額となった。 | いきいき運動推進員養成講座実施回数の減により、講師謝礼・会場使用料が減額となった。 | 2回予定していた研修を1回としたこと、講師の変更による報償費単価の減額 | | 講師、推進員活動謝礼の減額にて3月補正後242千円 | 養成講座の予算の重複分を減額し、3月補正後339千円 | 推進員研修会中止（コロナウイルス感染症拡大防止）による講師謝礼の減額 | コロナウイルス感染症拡大防止による推進員活動回数の減少による推進員活動謝礼の減額 | | |

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

| | | |
|---------------------|-----------------|---------------------------------------|
| 活動指標 1 (「手段」をもとに設定) | 指標名：運動推進員活動実施回数 | 指標の求め方：交流会・研修会・地域での活動状況など推進員が実施した事業回数 |
| 成果指標 1 (「成果」をもとに設定) | 指標名：参加延人数 | 指標の求め方：運動推進員が実施する運動教室の参加延人数 |

| 指標 | 活動指標 1 (単位/回) | 計画値 | 122 | 134 | 146 | 170 | 170 | 170 | 170 | 170 | 170 | 170 | 170 | | | | |
|--------------------------------|---|---|--|---|---|---|--|---|--|--|---|--|---|--|--|--|-------------|
| | 実績値 | 実績値 | 136 | 147 | 150 | 159 | 143 | 133 | 150 | 129 | 108 | 61 | | | | | |
| 成果指標 1 (単位/人/延) | 計画値 | 計画値 | 2,300 | 2,450 | 2,570 | 3,500 | 3,500 | 3,500 | 3,500 | 3,500 | 3,500 | 3,500 | | | | | |
| | 実績値 | 実績値 | 2,871 | 2,695 | 4,287 | 3,776 | 2,989 | 2,216 | 2,383 | 1,929 | 1,535 | 663 | | | | | |
| 事業 評価 内容 事業 評価 | 事業の達成度 (活動指標をもとに評価) | | | | | | | | | | | | 達成されている | ほぼ達成されている | | | あまり達成されていない |
| | 事業の成果 (成果指標をもとに評価) | | | | | | | | | | | | | 変わらない | | | 変わらない |
| | 事業の効率性 (事業費に対する成果) | | | | | | | | | | | | | 変わらない | | | 少し上がっている |
| | 総合評価 | | | | | | | | | | | | | 良好である | | | 普通である |
| | 総合評価の判断理由または指標に関する自己分析 | 自己分析： 昨年と比べ、新たに地域でのサロン活動が増え地域での活動回数は103回から123回と増加している。一方推進員の中には体調不良などで活動に参加できない方も出てきており、推進員一人ひとりの負担が大きくできており、増員が必要である。 | 自己分析： 実施回数の増加は、第3期養成講座に合わせた現推進員の研修を実施したこと、地域での活動場所が13か所から14か所に増加したためである。参加延べ人数の減少は、高齢者軽スポーツフェスティバルへの参加がなかったためであり、これを除くと274人の増となる。実質、活動場所・参加延数ともに増加している。 | 自己分析： 地域での活動場所が14か所から18か所に増加、うち12か所については定例で運動を継続している。また、定例で実施しているところは新規参加者も増加しており、述べ参加者は大幅に増加した。いきいき運動推進員によるいきいき体操があるが定着してきていると同時に、高齢者の閉じこもり予防もつづけている。 | 判断理由： 地域のサロン活動など高齢者が集まる場が少しずつ広がってきており、いきいき運動推進員の活動場所、参加者数も増加していることから事業評価としては良好と判断した。 | 自己分析： ユニフォームができたことにより推進員としての意識向上が図られ、参加者にも一目でわかるようになり好評である。いきいき運動を継続実施する場は定着してきており、多くは月1回の実施であり、介護予防のため更なる運動効果を高めていくためには、実施回数を増やしていくことが課題である。そのためにも、推進員を養成し活動できる人数を増やしていくことが必要である。 | 自己分析： いきいき運動推進員養成講座を実施したが参加人数は少なく、新たに誕生した推進員は3名にとどまった。推進員の活動が指導者のイメージがあり、一般住民にはハードルが高くなり手が届かないという課題がある。実施回数・参加人数ともに減少しているが、これは介護予防教室が終了したことと市民文化祭への参加がなかったことによるもので、地域での活動は定着している。 | 自己分析： 実施回数・参加人数ともに減少しているが、ゆう迷人カラオケまつりへの不参加と各会場での実施回数1～2回の減や1回の参加人数の減による。運動推進員の活動にあたっては「介護予防・日常生活支援総合事業」の介護予防事業における通所型サービスBのボランティアが有償となることからH29年度からサロン活動は有償とした。 | 判断理由： 推進員のなり手がいない、活動回数が増えないという課題はあるが、地域のサロン等での運動が定着してきており一定程度効果はあったものと考え良好であると判断した。 | 自己分析： 運動回数を月1回から2回へ増加した会場へも推進員を派遣することができ、実施回数と参加数が増加となった。推進員のなり手がいない課題を解消するため、推進員の派遣がなくても、DVDを活用して各団体を自主的に実施できる体制とするため、いきいき体操サポーター養成講座をH30年度実施する。 | 自己分析： 推進員の派遣は活動人員に限られているため、各団体月1回となり活動回数は若干減少している。しかし、サポーター養成講座を実施したことにより、推進員の派遣がなくても、自分達でDVDを活用して運動を継続する団体が増えてきている。また、DVDの内容も、参加者が取り組みやすいよう改良・工夫してきている。 | 自己分析： いきいき体操は、継続することで効果があると周知を続け、了解された団体に推進員を派遣したため、活動回数が減少している。また、コロナウイルス感染症拡大防止のための各団体の活動自粛もあり、活動回数、参加延人数も減少している。自主的に継続実施ができるようDVDを作成し、配布しているため、感染防止対策を講じながら、DVDを活用するなど、運動の継続可能な方法を模索しながら、高齢者の健康づくりに応じて運動を継続し、健康の維持向上、介護予防を推進していく必要がある。 | 自己分析： 新型コロナウイルスに伴い、緊急事態宣言中の活動を休止したため、実施回数及び参加延人数は減少している。その他、独自に自粛する団体もある。継続して体操を行っている参加者の体力測定を行い、自身の状態を把握してもらう機会を設け、コロナ禍でも運動を継続して行うことの必要性を啓発した。今後も状況に応じて運動を継続し、健康の維持向上、介護予防を推進していく必要がある。 | 判断理由： 活動指標、成果指標ともに達成していないが、推進員の派遣が限られている中で、DVDを活用して運動を自主的に継続していることやDVDの内容も改良することで、より参加者が取り組みやすくなってきていることから、ふつうであると判断した。 | | | |
| 今後の方向性 | | | | | | | | | | | | | 現状のまま継続 | 現状のまま継続 | | | 現状のまま継続 |
| 方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30) | H25： 高齢化が益々進む中、本事業は、高齢者の閉じこもり予防、運動機能の維持向上、生きがいつくりといった介護予防のための事業であり今後も継続していくことが必要である。 | | | H28： 本事業は、高齢者の閉じこもり予防、運動機能の維持向上、生きがいつくりといった介護予防のためのひとつの事業であり今後も継続していくことが必要である。 | | | H30： 本事業は、高齢者の閉じこもり予防、運動機能の維持向上、生きがいつくりといった介護予防のためのひとつの事業であり今後も継続していくことが必要である。 | | | | | | | | | | |

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

| 活動指標 1 (「手段」をもとに設定) | | 指標名：貸付金額 | | | | 指標の求め方：貸付金額 | | | | | | | | | |
|---------------------|--------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|--|---|---|---|---|---|
| 成果指標 1 (「成果」をもとに設定) | | 指標名：貸付件数 | | | | 指標の求め方：貸付件数 | | | | | | | | | |
| 指標 | 活動指標 1 (単位/千円) | 計画値 | 500 | 500 | 500 | 500 | 500 | 500 | 500 | 500 | 500 | 500 | 500 | | |
| | | 実績値 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| 指標 | 成果指標 1 (単位/件) | 計画値 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| | | 実績値 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| 事業 評価 | 事業の達成度 (活動指標をもとに評価) | | | | | 達成されていない | | | | 達成されていない | | | | | 達成されている |
| | 事業の成果 (成果指標をもとに評価) | | | | | 上がっていない | | | | 上がっていない | | | | | 上がっていない |
| | 事業の効率性 (事業費に対する成果) | | | | | 上がっていない | | | | 上がっていない | | | | | 上がっていない |
| | 総合評価 | | | | | 問題がある | | | | 問題がある | | | | | 問題がある |
| | 評価内容 | 総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析 | 自己分析： 相談があったが申請には至っていない。貸付事業であるため返済が必要となる点が申請に至らない一因ではないかと考える。 | 自己分析： 相談があったが申請には至っていない。貸付事業であるため返済が必要となる点が申請に至らない一因ではないかと考える。 | 自己分析： 実績がない状況が続いている。貸付事業であるため返済が必要となる点が申請に至らない一因ではないかと考えられることから、制度の見直しを検討する。 | 判断理由： 相談はあるが申請は0件である状況が続いていることから、問題があると判断した。 | 自己分析： 実績がない状況が続いている。貸付事業であるため返済が必要となる点が申請に至らない一因とも考えられる。今後、制度の見直しについて検討が必要だが、相談はあるため事業継続は必要と考える。 | 自己分析： 実績がない状況が続いている。貸付事業であるため返済が必要となる点が申請に至らない一因とも考えられる。今後、制度の見直しについて検討が必要だが、相談はあるため事業継続は必要と考える。 | 自己分析： 実績がない状況が続いている。貸付事業であるため返済が必要となる点が申請に至らない一因とも考えられる。今後、制度の見直しについて検討が必要だが、相談はあるため事業継続は必要と考える。 | 判断理由： 相談はあるが申請は0件である状況が続いていることから、問題があると判断した。 | 自己分析： 実績がない状況が続いている。貸付事業であるため返済が必要となる点が申請に至らない一因とも考えられる。今後、制度の見直しについて検討が必要だが、相談はあるため当面事業継続は必要と考える。 | 自己分析： 実績がない状況が続いている。貸付事業であるため返済が必要となる点が申請に至らない一因とも考えられる。今後、制度の見直しについて検討が必要だが、相談はあるため当面事業継続は必要と考える。 | 自己分析： 実績がない状況が続いている。貸付事業であるため返済が必要となる点が申請に至らない一因とも考えられる。今後、制度の見直しについて検討が必要だが、相談はあるため当面事業継続は必要と考える。 | 自己分析： 実績がない状況が続いている。貸付事業であるため返済が必要となる点が申請に至らない一因とも考えられる。今後、制度の見直しについて検討が必要だが、相談はあるため当面事業継続は必要と考える。 | 判断理由： 相談はあるが申請は0件である状況が続いていることから、問題があると判断した。 |
| | 今後の方向性 | | | | 手段の見直し | | | | 手段の見直し | | | | | 現状のまま継続 | |
| | 方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30) | H25： 事業開始した平成15年度に1件の申請があったが、それ以降平成24年度まで申請は0件であることから、現状のままでは事業の必要性が低いと考え、見直しが必要とした。 | | | | H28： 事業開始した平成15年度に1件の申請があったが、それ以降平成27年度まで申請は0件であることから、現状のままでは事業の必要性が低いと考えており、今後、第7期砂川市高齢者保健福祉計画（H30～32年度）の策定の際に、他のサービス等と整合性を図りながら、見直しが必要とした。 | | | | H30： 事業開始した平成15年度に1件の申請があったが、それ以降平成27年度まで申請は0件である。しかし、相談は寄せられており、住宅改修を行うために高齢者等の負担を軽減する事業であることから、事業は必要と考えている。 | | | | | |

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

| | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------------|---|----|--------|-----|--------------|-----------------|------------------------|---|------------------------------|---|---|------|-------------|---|
| 事業名 | 住宅改修支援事業 | | | | 事業期間 | 平成 12 年度 ～ ー 年度 | | | | | | 所管課係 | 介護福祉課高齢者支援係 | |
| 事業性質区分 | 新規・継続 | 継続 | 建設・建設外 | 建設外 | 第6期総合計画の位置付け | 2-1-3 | 他に関連する基本事業 | ー | ー | ー | ー | ー | ー | ー |
| 目的 (何のために実施するのか) | 介護保険制度において住宅改修理由書を作成した居宅介護支援事業所等に作成費を支給することにより、被保険者の円滑な制度利用を図る。 | | | | | | 手段 (どのような方法で実現するのか) | | 住宅改修理由書作成費用として1件2,000円を支給する。 | | | | | |
| 対象 (誰・何を対象としているのか) | 介護保険給付のうち住宅改修のみを行う要介護認定者に係る住宅改修理由書作成した介護支援専門員又は理学療法士等が所属する居宅介護支援事業所等。 | | | | | | 成果 (どのような効果が得られるのか) | | 介護保険制度の円滑な利用が図られる。 | | | | | |
| 事業開始時の状況・これまでの経緯 (行内内容含む) | 平成12年度介護保険制度の施行にあわせ、事業を開始している。 | | | | | | | | | | | | | |

【DO】

実績

(単位：円)

| | | 第1次実施3カ年計画 | | | | 第2次実施3カ年計画 | | | | 第3次実施4カ年計画 | | | | 第6期 総合 計画 合計 | |
|---|---------------------|----------------|----------------|----------------|-------------|---|---|----------------|---|---|---|---|-----------------|-----------------------|-------------|
| | | 第1年次 (23年度) | 第2年次 (24年度) | 第3年次 (25年度) | 実施3カ年 合計 | 第4年次 (26年度) | 第5年次 (27年度) | 第6年次 (28年度) | 実施3カ年 合計 | 第7年次 (29年度) | 第8年次 (30年度) | 第9年次 (31・R元年度) | 第10年次 (R2年度) | | 実施4カ年 合計 |
| 投入 され た 事 業 費 の 推 移 | 国費 | 計画額 | | | 0 | 15,000 | 15,000 | 15,000 | 45,000 | 15,000 | 15,000 | 15,000 | 15,000 | 60,000 | 105,000 |
| | | 予算計上額 | | | 0 | 15,000 | 15,000 | 15,000 | 45,000 | 15,000 | 15,000 | 15,000 | 15,000 | 60,000 | 105,000 |
| | | 実績額 | | | 0 | 16,000 | 14,820 | 17,940 | 48,760 | 13,260 | 14,630 | 12,320 | 10,010 | 50,220 | 98,980 |
| | 道費 | 計画額 | | | 0 | 7,000 | 7,000 | 7,000 | 21,000 | 7,000 | 7,000 | 7,000 | 7,000 | 28,000 | 49,000 |
| | | 予算計上額 | | | 0 | 7,000 | 7,000 | 7,000 | 21,000 | 7,000 | 7,000 | 7,000 | 7,000 | 28,000 | 49,000 |
| | | 実績額 | | | 0 | 8,000 | 7,410 | 8,970 | 24,380 | 6,630 | 7,315 | 6,160 | 5,005 | 25,110 | 49,490 |
| | 地方債 | 計画額 | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | | 予算計上額 | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | | 実績額 | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | その他 | 計画額 | | | 0 | 8,000 | 8,000 | 8,000 | 24,000 | 8,000 | 8,000 | 8,000 | 8,000 | 32,000 | 56,000 |
| | | 予算計上額 | | | 0 | 8,000 | 8,000 | 8,000 | 24,000 | 8,000 | 9,000 | 9,000 | 9,000 | 35,000 | 59,000 |
| | | 実績額 | | | 0 | 8,000 | 8,360 | 10,120 | 26,480 | 7,480 | 8,740 | 7,360 | 5,980 | 29,560 | 56,040 |
| 一般財源 | 計画額 | | | 0 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 30,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 40,000 | 70,000 | |
| | 予算計上額 | | | 0 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 30,000 | 10,000 | 9,000 | 9,000 | 9,000 | 37,000 | 67,000 | |
| | 実績額 | | | 0 | 10,000 | 7,410 | 8,970 | 26,380 | 6,630 | 7,315 | 6,160 | 5,005 | 25,110 | 51,490 | |
| 事業費合計 | 計画額 | 0 | 0 | 0 | 40,000 | 40,000 | 40,000 | 120,000 | 40,000 | 40,000 | 40,000 | 40,000 | 160,000 | 280,000 | |
| | 予算計上額 | 0 | 0 | 0 | 40,000 | 40,000 | 40,000 | 120,000 | 40,000 | 40,000 | 40,000 | 40,000 | 160,000 | 280,000 | |
| | 実績額 | 0 | 0 | 0 | 42,000 | 38,000 | 46,000 | 126,000 | 34,000 | 38,000 | 32,000 | 26,000 | 130,000 | 256,000 | |
| 事業費予算の内容 | 内容 | | | | 役務費 | 役務費 | 役務費 | | 役務費 | 役務費 | 役務費 | 役務費 | | | |
| | 前年度予算との比較 (増減理由) | | | | | 前年度同額 | 前年度同額 | | 前年度同額 | 前年度同額 | 前年度同額 | 前年度同額 | | | |
| | 実績との比較 (増減理由) | | | | | 利用件数が見込 件数を下回った ことによる減 20件→19件 | 利用件数が見込 件数を上回った ことによる増 19件→23件 | | 利用件数が見込 件数を下回った ことによる減 20件→17件 | 利用件数が見込 件数を下回った ことによる減 20件→19件 | 利用件数が見込 件数を下回った ことによる減 20件→16件 | 利用件数が見込 件数を下回った ことによる減 20件→13件 | | | |

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

| 活動指標 1 (「手段」をもとに設定) | | 指標名：支給金額 | | | | 指標の求め方：支給金額 | | | | | | | | |
|---------------------------------------|--------------------------------|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 成果指標 1 (「成果」をもとに設定) | | 指標名：利用件数 | | | | 指標の求め方：利用件数 | | | | | | | | |
| 指標 | 活動指標 1 (単位/千円) | 計画値 | | | | 40 | 40 | 40 | | 40 | 40 | 40 | 40 | |
| | | 実績値 | | | | 42 | 38 | 46 | | 34 | 38 | 32 | 26 | |
| 指標 | 成果指標 1 (単位/件) | 計画値 | | | | 20 | 20 | 20 | | 20 | 20 | 20 | 20 | |
| | | 実績値 | | | | 21 | 19 | 23 | | 17 | 19 | 16 | 13 | |
| 事業 評価 | 事業の達成度 (活動指標をもとに評価) | | | | | | | | | 達成されている | | | | 達成されている |
| | 事業の成果 (成果指標をもとに評価) | | | | | | | | | 変わらない | | | | 変わらない |
| | 事業の効率性 (事業費に対する成果) | | | | | | | | | 変わらない | | | | 変わらない |
| | 総合評価 | | | | | | | | | 良好である | | | | 良好である |
| | 総合評価の判断理由 または指標の実績値に関する自己分析 | 自己分析： 実績として計画値を若干上回る結果となり、事業目的は果たされていると判断できる。 今後は実績値等を鑑み予算拡充も検討する。 なお、実績額が予算額を上回っているが、同費目の総予算が他の用途分と合わせ111千円で計上していたため、これにより対応した。 | 自己分析： 実績として計画値を若干下回る結果となったが、事業目的は果たされていると判断できる。 今後は実績値等を鑑み予算拡充も検討する。 | 自己分析： 実績として計画値を若干上回る結果となり、事業目的は果たされていると判断できる。 今後は実績値等を鑑み予算拡充も検討する。 | 判断理由： 実績件数や支給金額がほぼ計画値を達成しており、介護保険制度において住宅改修理由書を作成した居宅介護支援事業所等に作成費を支給することにより、被保険者の円滑な制度利用を図られているため、良好であるとした。 | 自己分析： 実績として計画値を若干下回る結果となったが、事業目的は果たされていると判断できる。 | 自己分析： 実績として計画値を若干下回る結果となったが、事業目的は果たされていると判断できる。 | 自己分析： 実績として計画値を若干下回る結果となったが、事業目的は果たされていると判断できる。 | 自己分析： 実績として計画値を若干下回る結果となったが、事業目的は果たされていると判断できる。 | 判断理由： 実績件数や支給金額がほぼ計画値を達成しており、介護保険制度において住宅改修理由書を作成した居宅介護支援事業所等に作成費を支給することにより、被保険者の円滑な制度利用を図られているため、良好であるとした。 | 自己分析： 実績として計画値を若干下回る結果となったが、事業目的は果たされていると判断できる。 | 自己分析： 実績として計画値を若干下回る結果となったが、事業目的は果たされていると判断できる。 | 自己分析： 実績として計画値を若干下回る結果となったが、事業目的は果たされていると判断できる。 | 自己分析： 実績として計画値を若干下回る結果となったが、事業目的は果たされていると判断できる。 |
| 今後の方向性 | | | | | | | | | | 現状のまま継続 | | | | 現状のまま継続 |
| 方向性の判断理由 改善、改革の内容 (H25、H28、H30) | H25： | | | | H28： 介護保険制度において住宅改修理由書を作成した居宅介護支援事業所等に作成費を支給することにより、被保険者の円滑な制度利用を図る本事業は今後も必要であるため、引き続き現状のまま継続と判断した。 | | | | H30： 介護保険制度において住宅改修理由書を作成した居宅介護支援事業所等に作成費を支給することにより、被保険者の円滑な制度利用を図る本事業は今後も必要であるため、引き続き現状のまま継続と判断した。 | | | | | |

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

| 事業名 | 除雪サービス事業 | | | | 事業期間 | 平成 8 年度 ～ 年度 | | | | | 所管課係 | 介護福祉課高齢者支援係 | | |
|--------------------------|--|----|--------|-----|--------------|--------------|------------------------|---|--|---|------|-------------|---|--|
| 事業性質区分 | 新規・継続 | 継続 | 建設・建設外 | 建設外 | 第6期総合計画の位置付け | 2-1-3 | 他に関連する基本事業 | — | — | — | — | — | — | |
| 目的 (何のために実施するのか) | 冬期間において除雪労力の確保が困難な高齢者世帯等が、地域で安心して在宅生活ができるよう除雪支援を図る。 | | | | | | 手段 (どのような方法で実現するのか) | | 団体、企業等に業務委託を行い、12月初旬から3月中旬までの期間において、早朝までに10cm以上降雪があった場合、玄関先から公道までおおむね幅1m程度の除雪を行う。 利用者負担金（15,000円/1シーズン）を徴収する。 | | | | | |
| 対象 (誰・何を対象としているのか) | おおむね70歳以上の高齢者世帯又は重度身体障害者世帯（身体障害者手帳1級又は2級の手帳を有する世帯）で、自力で除雪することが困難な世帯。 | | | | | | 成果 (どのような効果が得られるのか) | | 冬期間に通院等で外出する際の通路を確保することにより、地域で安心して暮らせるよう在宅支援が図られる。 | | | | | |
| 事業開始時の状況・これまでの経緯（行革内容含む） | 平成8年度より事業を開始し、自力で除雪することが困難な高齢者や障害者世帯の生活路の確保を支援している。 平成13年度から、市内に扶養義務者のいる世帯にもサービスを開始。 業務委託料については、行財政改革により、平成17年度には1世帯50,000円/1シーズンを1世帯47,500円/1シーズンに、平成20年度には1世帯45,125円/1シーズンに、平成27年度には最低賃金及び燃料費の上昇から1世帯47,532円/1シーズンに改正した。 | | | | | | | | | | | | | |

【DO】

実績

(単位：円)

| | | 第1次実施3カ年計画 | | | | 第2次実施3カ年計画 | | | | 第3次実施4カ年計画 | | | | 第6期総合計画合計 | | |
|-------------|---------------------|------------------------|-----------------------|-----------------------|--------------------|------------------------|-----------------------|----------------|-----------------------|-----------------------|------------------------|------------------------|-----------------|------------|-------------|------------|
| | | 第1年次 (23年度) | 第2年次 (24年度) | 第3年次 (25年度) | 実施3カ年 合計 | 第4年次 (26年度) | 第5年次 (27年度) | 第6年次 (28年度) | 実施3カ年 合計 | 第7年次 (29年度) | 第8年次 (30年度) | 第9年次 (31・R元年度) | 第10年次 (R2年度) | | 実施4カ年 合計 | |
| 投入された事業費の推移 | 国費 | 計画額 | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 | |
| | | 予算計上額 | | | | 0 | | | 0 | | | | | 0 | 0 | |
| | | 実績額 | | | | 0 | | | 0 | | | | | 0 | 0 | |
| | 道費 | 計画額 | | | | 0 | | | 0 | | | | | 0 | 0 | |
| | | 予算計上額 | | | | 0 | | | 0 | | | | | 0 | 0 | |
| | | 実績額 | | | | 0 | | | 0 | | | | | 0 | 0 | |
| | 地方債 | 計画額 | | | | 0 | | | 0 | | | | | 0 | 0 | |
| | | 予算計上額 | | | | 0 | | | 0 | | | | | 0 | 0 | |
| | | 実績額 | | | | 0 | | 3,000,000 | 3,000,000 | | | | | 0 | 3,000,000 | |
| | その他 | 計画額 | 1,200,000 | 1,200,000 | 1,200,000 | 3,600,000 | 1,560,000 | 1,560,000 | 1,560,000 | 4,680,000 | 1,500,000 | 1,500,000 | 1,500,000 | 1,500,000 | 6,000,000 | 14,280,000 |
| | | 予算計上額 | 1,200,000 | 1,200,000 | 1,260,000 | 3,660,000 | 1,560,000 | 1,305,000 | 1,500,000 | 4,365,000 | 1,500,000 | 1,350,000 | 1,425,000 | 1,425,000 | 5,700,000 | 13,725,000 |
| | | 実績額 | 1,040,809 | 1,240,634 | 1,420,224 | 3,701,667 | 1,400,181 | 1,397,969 | 1,354,906 | 4,153,056 | 1,246,906 | 1,345,908 | 1,182,432 | 1,087,772 | 4,863,018 | 12,717,741 |
| 一般財源 | 計画額 | 2,185,000 | 2,185,000 | 2,185,000 | 6,555,000 | 2,896,000 | 2,896,000 | 2,896,000 | 8,688,000 | 3,268,000 | 3,268,000 | 3,268,000 | 3,268,000 | 13,072,000 | 28,315,000 | |
| | 予算計上額 | 2,185,000 | 2,185,000 | 2,350,000 | 6,720,000 | 2,896,000 | 2,831,000 | 3,268,000 | 8,995,000 | 3,268,000 | 2,941,000 | 3,188,000 | 3,251,000 | 12,648,000 | 28,363,000 | |
| | 実績額 | 1,909,795 | 2,312,343 | 2,491,290 | 6,713,428 | 2,514,713 | 31,925 | 2,951,172 | 5,497,810 | 2,715,934 | 2,931,570 | 2,645,022 | 2,481,210 | 10,773,736 | 22,984,974 | |
| 事業費合計 | 計画額 | 3,385,000 | 3,385,000 | 3,385,000 | 10,155,000 | 4,456,000 | 4,456,000 | 4,456,000 | 13,368,000 | 4,768,000 | 4,768,000 | 4,768,000 | 4,768,000 | 19,072,000 | 42,595,000 | |
| | 予算計上額 | 3,385,000 | 3,385,000 | 3,610,000 | 10,380,000 | 4,456,000 | 4,136,000 | 4,768,000 | 13,360,000 | 4,768,000 | 4,291,000 | 4,613,000 | 4,676,000 | 18,348,000 | 42,088,000 | |
| | 実績額 | 2,950,604 | 3,552,977 | 3,911,514 | 10,415,095 | 3,914,894 | 4,429,894 | 4,306,078 | 12,650,866 | 3,962,840 | 4,277,478 | 3,827,454 | 3,568,982 | 15,636,754 | 38,702,715 | |
| 事業費予算の内容 | 委託料 45,125円×75件 | 委託料 45,125円×75件 | 委託料 45,125円×80件 | | 委託料 46,415円×96件 | 委託料 47,532円×87件 | 委託料 47,672円×100件 | | 委託料 47,672円×100件 | 委託料 47,672円×90件 | 委託料 48,554円×95件 | 委託料 49,215円×95件 | | | | |
| | 前年度予算との比較 (増減理由) | 前年度同額 | 前年度同額 | 申請見込件数の増 | 申請見込件数の増及び消費税増 | 申請見込件数の減 | 申請見込件数の増 | | 前年度同額 | 申請見込件数の減 | 申請見込件数の増及び消費税増 | 最低賃金の上昇による委託料増 | | | | |
| | 実績との比較 (増減理由) | 申請見込件数の減 3月補正△271千円 | 申請見込件数の増 3月補正361千円 | 申請見込件数の増 3月補正361千円 | | 申請見込件数の減 3月補正△278千円 | 申請見込件数の増 3月補正618千円 | | 申請見込件数の減 3月補正238千円 | 申請見込件数の増 3月補正238千円 | 申請見込件数の減 3月補正△485千円 | 申請見込件数の減 3月補正△738千円 | | | | |

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

| 活動指標 1 (「手段」をもとに設定) | | 指標名：除雪出動日数 | | | | 指標の求め方：除雪出動日数 | | | | | | | | | |
|---------------------|--------------------------------|--|---|---|---|--|---|--|---|--|---|--|--|--|--|
| 成果指標 1 (「成果」をもとに設定) | | 指標名：利用件数 | | | | 指標の求め方：利用件数 | | | | | | | | | |
| 指標 | 活動指標 1 (単位/日) | 計画値 | 50 | 50 | 50 | | 50 | 50 | 50 | | 50 | 50 | 50 | 50 | |
| | | 実績値 | 53 | 56 | 49 | | 40 | 69 | 30 | | 32 | 38 | 23 | 38 | |
| 指標 | 成果指標 1 (単位/件) | 計画値 | 75 | 75 | 75 | | 75 | 75 | 75 | | 75 | 75 | 75 | 75 | |
| | | 実績値 | 66 | 79 | 89 | | 85 | 95 | 92 | | 85 | 91 | 79 | 73 | |
| 事業評価 | 事業の達成度 (活動指標をもとに評価) | | | | | ほぼ達成されている | | | | | 達成されている | | | | 達成されている |
| | 事業の成果 (成果指標をもとに評価) | | | | | 上がっている | | | | | 上がっている | | | | 上がっている |
| | 事業の効率性 (事業費に対する成果) | | | | | 上がっている | | | | | 上がっている | | | | 上がっている |
| | 総合評価 | | | | | 良好である | | | | | 良好である | | | | 良好である |
| | 評価内容 | 総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析 | 自己分析：除雪出動日数は計画値とほぼ同数である。利用件数は計画値を下回っているが、除雪困難な高齢者世帯等が冬期間も安心して在宅生活を送る環境が確保されている。 | 自己分析：除雪出動日数及び利用件数ともに計画値を上回っている。また利用件数は前年度より13件の増となっており、除雪困難な高齢者世帯等が冬期間も安心して在宅生活を送る環境が確保されている。 | 自己分析：除雪利用日数は計画値とほぼ同数であるが、利用件数は計画値を上回り、また、年々増加している。除雪困難な高齢者世帯等が冬期間も安心して在宅生活を送る環境が確保されている。より利用しやすい制度とするため、除雪内容及び利用者負担金等の見直しを行い、平成26年度から適用する予定である。 | 判断理由：事業の実施により冬期間も安心して在宅生活を送る環境が確保され、また利用件数も増加していることから、良好と判断した。 | 自己分析：計画値と比して除雪出動日数は除雪状況により下回っているが利用件数は上回っており、需要が高いことから効果の高いサービスと考える。27年度は利用者負担金の見直しなど制度充実を図ったことにより利用件数が増えたと考えられる。今後も除雪が困難な高齢者世帯等が冬期間も安心して在宅生活を送る環境確保に努める。 | 自己分析：計画値と比して除雪出動日数及び利用件数が上回っており、需要が高いことから効果の高いサービスと考える。27年度は利用者負担金の見直しなど制度充実を図ったことにより利用件数が増えたと考えられる。今後も除雪が困難な高齢者世帯等が冬期間も安心して在宅生活を送る環境確保に努める。 | 自己分析：少雪により計画値と比して除雪出動日数が下回っているが利用件数は上回っていることから、効果の高いサービスと考える。今後も除雪が困難な高齢者世帯等が冬期間も安心して在宅生活を送る環境確保に努める。 | 判断理由：事業の実施により冬期間も安心して在宅生活を送る環境が確保され、また利用件数も増加していることから、良好と判断した。 | 自己分析：3月に除雪出動が無かったため計画値と比して除雪出動日数は下回っているが利用件数は上回っていることから、需要が多く効果の高いサービスと考える。今後も除雪が困難な高齢者世帯等が冬期間も安心して在宅生活を送る環境確保に努める。 | 自己分析：少雪により計画値と比して除雪出動日数は下回っているが利用件数は上回っていることから、需要が多く効果の高いサービスと考える。今後も除雪が困難な高齢者世帯等が冬期間も安心して在宅生活を送る環境確保に努める。 | 自己分析：少雪により計画値と比して除雪出動日数は下回っているが利用件数は上回っていることから、需要が多く効果の高いサービスと考える。今後も除雪が困難な高齢者世帯等が冬期間も安心して在宅生活を送る環境確保に努める。 | 自己分析：出動回数は、計画値よりも下回っており、利用人数も計画値と同程度であったが、1回あたりの降雪量が多い日が多く、冬期間の安心した生活の確保につながっていることから、今後も安心して在宅生活を送る環境確保に努める。 | 判断理由：事業の実施により冬期間も安心して在宅生活を送る環境が確保され、また利用件数も増加していることから、良好と判断した。 |
| | 今後の方向性 | | | | | 現状のまま継続 | | | | | 現状のまま継続 | | | | 現状のまま継続 |
| | 方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30) | H25：高齢者世帯の増加に伴い、今後も事業の必要性が増していくと考えられることから、現状のまま継続する。 | | | | H28：高齢者世帯の増加に伴い、今後も事業の必要性がさらに増していくと考えられることから、現状のまま継続する。 | | | | H30：高齢者世帯の増加に伴い、今後も事業の必要性がさらに増していくと考えられるため、それに対応するための除雪業務の担い手拡充を今後の課題点とするが、事業は現状のまま継続する。 | | | | | |

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

| 事業名 | 緊急通報装置設置事業 | | | | 事業期間 | 平成 3 年度 ～ 年度 | | | | | | 所管課係 | 介護福祉課高齢者支援係 | |
|------------------------------|--|----|--------|-----|--------------|--------------|------------------------|---|---|---|---|------|-------------|--|
| 事業性質区分 | 新規・継続 | 継続 | 建設・建設外 | 建設外 | 第6期総合計画の位置付け | 2-1-3 | 他に関連する基本事業 | - | - | - | - | - | - | |
| 目的 (何のために実施するのか) | 一人暮らしの病弱な高齢者に緊急通報装置を設置することにより、急病・災害発生時における迅速かつ適切な対応及び日常生活相談に応じることができ、在宅生活の不安解消につなげる。 | | | | | | 手段 (どのような方法で実現するのか) | | 緊急通報装置を設置し、生活相談及び緊急通報が広域消防組合へ直通でつながることにより、高齢者の生活不安の解消と人命の安全を確保する。 | | | | | |
| 対象 (誰・何を対象としているのか) | 65歳以上の高齢者世帯に属する身体病弱者及び重度身体障害者等。 | | | | | | 成果 (どのような効果が得られるのか) | | 高齢者等の生活不安の解消と人命の安全確保が図られる。 | | | | | |
| 事業開始時の状況・これまでの経緯 (行革内容含む) | 平成3年度より事業を開始し、高齢者等の一人暮らしによる生活不安の解消及び安全確保と、急病・災害等に迅速に対応し、福祉の増進を図っている。平成17年度に設置委託料の引き下げを行う（1機あたり15,000円→13,500円）。また同年度に広域消防組合設置のセンターパソコンの更新を行っている。平成24年度より、緊急通報装置について買取りからレンタルへ変更し、あわせて対象要件をおおむね65歳以上で一人暮らしの病弱な高齢者及び重度心身障害者から、65歳以上の高齢者世帯に属する身体病弱者及び重度身体障害者等へ拡大し設置件数の増加を図っている。平成30年度より緊急通報装置機器点検を開始し、機器の適正な維持管理に努め緊急時における利用者のさらなる安心安全を図っている。 | | | | | | | | | | | | | |

【DO】

実績

(単位: 円)

| | | 第1次実施3カ年計画 | | | | 第2次実施3カ年計画 | | | | 第3次実施4カ年計画 | | | | 第6期総合計画 | | |
|-----------------------|---------------------|---|---------------------------|----------------------------|--------------|---------------------------|---------------------------|----------------------------|--------------|---------------------------|---------------------------|--|--|-----------|--------------|---|
| | | 第1年次 (23年度) | 第2年次 (24年度) | 第3年次 (25年度) | 実施3カ年 合 計 | 第4年次 (26年度) | 第5年次 (27年度) | 第6年次 (28年度) | 実施3カ年 合 計 | 第7年次 (29年度) | 第8年次 (30年度) | 第9年次 (31・R元年度) | 第10年次 (R2年度) | | 実施4カ年 合 計 | |
| 投入された事業費の推移 | 国 費 | 計 画 額 | | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | | 予 算 計 上 額 | | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | | 実 績 額 | | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | 道 費 | 計 画 額 | | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | | 予 算 計 上 額 | | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | | 実 績 額 | | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | 地 方 債 | 計 画 額 | | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | | 予 算 計 上 額 | | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | | 実 績 額 | | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | そ の 他 | 計 画 額 | | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | | 予 算 計 上 額 | | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | | 実 績 額 | | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| 一 般 財 源 | 計 画 額 | 142,000 | 282,000 | 282,000 | 706,000 | 483,000 | 483,000 | 483,000 | 1,449,000 | 483,000 | 483,000 | 483,000 | 483,000 | 1,932,000 | 4,087,000 | |
| | 予 算 計 上 額 | 142,000 | 338,000 | 756,000 | 1,236,000 | 483,000 | 483,000 | 483,000 | 1,449,000 | 483,000 | 825,000 | 982,000 | 1,077,000 | 3,367,000 | 6,052,000 | |
| | 実 績 額 | 85,050 | 735,420 | 369,180 | 1,189,650 | 236,952 | 424,980 | 187,056 | 848,988 | 204,228 | 417,960 | 695,844 | 689,370 | 2,007,402 | 4,046,040 | |
| | 計 画 額 | 142,000 | 282,000 | 282,000 | 706,000 | 483,000 | 483,000 | 483,000 | 1,449,000 | 483,000 | 483,000 | 483,000 | 483,000 | 1,932,000 | 4,087,000 | |
| 事 業 費 合 計 | 予 算 計 上 額 | 142,000 | 338,000 | 756,000 | 1,236,000 | 483,000 | 483,000 | 483,000 | 1,449,000 | 483,000 | 825,000 | 982,000 | 1,077,000 | 3,367,000 | 6,052,000 | |
| | 実 績 額 | 85,050 | 735,420 | 369,180 | 1,189,650 | 236,952 | 424,980 | 187,056 | 848,988 | 204,228 | 417,960 | 695,844 | 689,370 | 2,007,402 | 4,046,040 | |
| | 委 託 料 | 14,175円×10件 | 3,045円×24件 11,025円×24件 | 3,045円×50件 12,075円×50件 | | 3,132円×30件 12,960円×30件 | 3,132円×30件 12,960円×30件 | 3,132円×30件 12,960円×30件 | | 3,132円×30件 12,960円×30件 | 3,132円×30件 12,960円×30件 | 5,940円×25件 9,720円×5件 13,500円×30件 4,860円×77台 | 5,940円×15件 6,050円×10件 9,900円×5件 14,300円×30件 5,500円×82件 | | | |
| | 前年度予算との比較 (増減理由) | 前年度同額 | 事業の一部改正による単価及び件数の変更 | 申請見込件数の増 | | 申請見込件数の減、単価変更は消費税増税分 | 前年度同額 | 前年度同額 | | 前年度同額 | 工事単価の変更及び機器保守点検委託の開始による増 | 工事単価の変更及び年度途中の消費税増税による単価変更見込分 | 工事単価の変更による増 | | | |
| 実 績 と の 比 較 (増減理由) | | 設置台数10件。23年公営住宅新築に伴い、設置経費の一部(高齢者専用住宅分)が建設費に含まれたため減3月補正 △28千円 | 設置見込件数の増 3月補正570千円 | 申請見込件数の減 3月補正 △302千円 | | 申請見込件数の減 3月補正 △80千円 | 申請見込件数の減 | 申請見込件数の減 3月補正 △166千円 | | 申請見込件数の減 3月補正 △5千円 | 申請見込件数の減 3月補正 △32千円 | 申請見込件数の減 3月補正 △66千円 | 申請見込件数の減 3月補正 △139千円 | | | |

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

| 活動指標 1 (「手段」をもとに設定) | | 指標名：総設置数 | | | | 指標の求め方：年度末総設置数 (=前年度末総設置数+新規設置数-廃止数) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|---|---|--|--|---|--|--|--|---|--|---|--|--|---|-----|-----|-----|-----|--|-----------|---------|--|--|--|
| 成果指標 1 (「成果」をもとに設定) | | 指標名：新規設置数 | | | | 指標の求め方：1年間の新規設置数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 指標 | 活動指標 1 (単位/台) | 計画値 | 110 | 130 | 130 | 130 | 130 | 130 | 130 | 130 | 130 | 130 | 130 | 130 | 130 | 130 | 130 | 130 | | | | | | |
| | | 実績値 | 121 | 157 | 170 | 175 | 173 | 174 | 168 | 156 | 160 | 147 | | | | | | | | | | | | |
| 指標 | 成果指標 1 (単位/台) | 計画値 | 10 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | | | | | | |
| | | 実績値 | 10 | 50 | 29 | 19 | 26 | 19 | 13 | 18 | 22 | 16 | | | | | | | | | | | | |
| 事業 評価 内容 | 事業の達成度 (活動指標をもとに評価) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ほぼ達成されている | | | | |
| | 事業の成果 (成果指標をもとに評価) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 上がっている | | | |
| | 事業の効率性 (事業費に対する成果) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 上がっている | | | |
| | 総合評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 良好である | | | |
| | 総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析 | 自己分析： 総設置数は計画値を上回り、新規設置数は計画値と同数であり、必要とする方へ機器を設置している。急病等発生時に迅速かつ適切に対応するとともに、機器を設置することにより在宅生活不安の解消が図られている。 | 自己分析： 対象要件の拡大により総設置数及び新規設置数とも計画値を上回っている。身体病弱等の対象者へ装置を設置することにより、在宅生活不安の解消及び急病等発生時の迅速かつ適切な対応につながっている。 | 自己分析： 総設置数及び新規設置数とも計画値を上回っている。装置を設置することにより、在宅生活不安の解消及び急病等発生時の迅速かつ適切な対応につながっている。 | 判断理由： 対象要件の拡大により設置件数が増加しており、在宅生活不安の解消及び急病等発生時の迅速かつ適切な対応につながっていることから、良好と判断した。 | 自己分析： 総設置数は計画値を上回っているが、新規設置数は若干下回った。これについては装置の総設置数にあるとおり、普及増加によるもの一因と捉えている。事業自体は在宅生活不安の解消及び急病等発生時の迅速かつ適切な対応につながっており有効施策と判断している。 | 自己分析： 27年度の新規設置数は前年度より増加したが廃止数が前年度を上回ったため、総設置数は前年度を下回ったが、ともに計画値を上回っている。事業自体は在宅生活不安の解消及び急病等発生時の迅速かつ適切な対応につながっており有効施策と判断している。 | 自己分析： 総設置数は計画値を上回っているが、新規設置数は若干下回った。これについては装置の総設置数にあるとおり、普及増加によるもの一因と捉えている。事業自体は在宅生活不安の解消及び急病等発生時の迅速かつ適切な対応につながっており有効施策と判断している。 | 判断理由： 設置件数が増加傾向であり、在宅生活不安の解消及び急病等発生時の迅速かつ適切な対応につながることから、良好と判断した。 | 自己分析： 新規設置数は下回っているが、総設置数は計画値を大きく上回りここ数年は同水準を維持している。事業自体は在宅生活不安の解消及び急病等発生時の迅速かつ適切な対応につながっている。機器の設置により、在宅生活不安の解消及び急病等発生時の迅速かつ適切な対応につながっている。 | 自己分析： 総設置数は廃止件数増により前年度より減少したものの計画値を上回っており、新規設置数は前年を上回っている。在宅生活不安の解消及び急病等発生時の迅速かつ適切な対応につながっている。 | 自己分析： 総設置数及び新規設置数とも計画値を上回っている。装置を設置することにより、在宅生活不安の解消及び急病等発生時の迅速かつ適切な対応につながっている。 | 自己分析： 新規設置数は計画値を下回っているが、これについては装置の普及増加によるもの一因と捉えている。総設置数については、廃止数が前年度を上回ったため、前年度を下回ったが、計画値を上回っている。機器の設置により、在宅生活不安の解消及び急病等発生時の迅速かつ適切な対応につながっている。 | 判断理由： 必要とする高齢者への普及増進もなされており、在宅生活不安の解消及び急病等発生時の迅速かつ適切な対応につながっていることから、良好と判断した。 | | | | | | | | | | |
| 今後の方向性 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 現状のまま継続 | | | |
| 方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30) | H25： 平成24年度より対象要件の拡大を行い、これまでは対象外であった方へも設置可能となり設置件数の増加につながっていることから、現状のまま継続する。 | | | | H28： 設置件数が増加傾向であり、在宅生活不安の解消及び急病等発生時の迅速かつ適切な対応につながっていることから、現状のまま継続する。 | | | | H30： 在宅生活不安の解消及び急病等発生時の迅速かつ適切な対応につながっていることから、現状のまま継続する。 | | | | | | | | | | | | | | | |

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|----|--------|-----|--------------|-----------------|------------|------------------------|---|---|---|------|-------------|---|--|
| 事業名 | 高齢者専用住宅ホームヘルプサービス事業 | | | | 事業期間 | 昭和 58 年度 ～ ー 年度 | | | | | | 所管課係 | 介護福祉課高齢者支援係 | | |
| 事業性質区分 | 新規・継続 | 継続 | 建設・建設外 | 建設外 | 第6期総合計画の位置付け | 2-1-3 | 他に関連する基本事業 | ー | ー | ー | ー | ー | ー | ー | |
| 目的 (何のために実施するのか) | 高齢者専用住宅入居者の日常生活を支援し、入居高齢者が安心して過ごせる住居環境を提供する。 | | | | | | | 手段 (どのような方法で実現するのか) | 砂川市高齢者専用住宅の団地ごとにホームヘルパーを常駐または派遣し、入居者の安否確認及び生活相談等の生活支援を行う。 | | | | | | |
| 対象 (誰・何を対象としているのか) | 砂川市高齢者専用住宅（豊栄団地25戸、宮川中央団地10戸、すずらん団地12戸、三砂団地12戸、南吉野団地11戸）入居者。 | | | | | | | 成果 (どのような効果が得られるのか) | 入居高齢者に対し、安否確認及び生活相談等を行うことにより、安心して在宅生活を送ることができる。 | | | | | | |
| 事業開始時の状況・これまでの経緯（行革内容含む） | 昭和58年度より事業を開始し、高齢者専用住宅入居者の日常生活を支援し、入居高齢者が安心して過ごせる住居環境を提供している。平成12年度より、市の直営から介護サービスを提供する事業所へ民間委託とした。平成21年度より、介護保険特別会計 地域支援事業（任意事業）へ移行した。南吉野団地については、平成18年度老朽化により全13戸を廃止し、建替事業により平成21年度7戸、平成23年度4戸を設定している。豊栄団地については、住み替え事業による建物除却や政策空家の実施により、現在居住している4戸のみで実施している。 | | | | | | | | | | | | | | |

【DO】

実績

（単位：円）

| | | 第1次実施3カ年計画 | | | | 第2次実施3カ年計画 | | | | 第3次実施4カ年計画 | | | | 第6期総合計画 | | |
|-------------|---------------------|----------------|----------------|----------------|-------------|----------------|-----------------------------|----------------|-------------|----------------|---------------------------|-----------------------|-----------------|------------|-------------|------------|
| | | 第1年次 (23年度) | 第2年次 (24年度) | 第3年次 (25年度) | 実施3カ年 合計 | 第4年次 (26年度) | 第5年次 (27年度) | 第6年次 (28年度) | 実施3カ年 合計 | 第7年次 (29年度) | 第8年次 (30年度) | 第9年次 (31・R元年度) | 第10年次 (R2年度) | | 実施4カ年 合計 | |
| 投入された事業費の推移 | 国費 | 計画額 | 1,662,000 | 1,662,000 | 1,662,000 | 4,986,000 | 1,653,000 | 1,653,000 | 1,653,000 | 4,959,000 | 1,587,000 | 1,587,000 | 1,587,000 | 1,587,000 | 6,348,000 | 16,293,000 |
| | | 予算計上額 | 1,662,000 | 1,662,400 | 1,648,730 | 4,973,130 | 1,653,000 | 1,653,000 | 1,587,690 | 4,893,690 | 1,589,000 | 1,524,000 | 1,176,000 | 1,188,000 | 5,477,000 | 15,343,820 |
| | | 実績額 | 1,662,240 | 1,641,462 | 1,648,572 | 4,952,274 | 1,653,000 | 1,607,334 | 1,587,690 | 4,848,024 | 1,589,445 | 1,330,950 | 1,176,252 | 1,187,802 | 5,284,449 | 15,084,747 |
| | 道費 | 計画額 | 831,000 | 831,000 | 831,000 | 2,493,000 | 826,000 | 826,000 | 826,000 | 2,478,000 | 793,000 | 793,000 | 793,000 | 793,000 | 3,172,000 | 8,143,000 |
| | | 予算計上額 | 831,000 | 831,200 | 824,365 | 2,486,565 | 826,000 | 826,000 | 793,845 | 2,445,845 | 794,000 | 762,000 | 588,000 | 594,000 | 2,738,000 | 7,670,410 |
| | | 実績額 | 831,120 | 820,731 | 824,286 | 2,476,137 | 826,000 | 803,667 | 793,845 | 2,423,512 | 794,722 | 665,475 | 588,126 | 593,901 | 2,642,224 | 7,541,873 |
| | 地方債 | 計画額 | | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | | 予算計上額 | | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | | 実績額 | | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | その他 | 計画額 | 831,000 | 831,000 | 831,000 | 2,493,000 | 879,000 | 879,000 | 879,000 | 2,637,000 | 895,000 | 895,000 | 895,000 | 895,000 | 3,580,000 | 8,710,000 |
| | | 予算計上額 | 831,000 | 831,200 | 876,540 | 2,538,740 | 879,000 | 879,000 | 895,620 | 2,653,620 | 896,000 | 910,000 | 703,000 | 709,000 | 3,218,000 | 8,410,360 |
| | | 実績額 | 831,120 | 872,676 | 876,456 | 2,580,252 | 879,000 | 854,532 | 895,620 | 2,629,152 | 896,610 | 795,113 | 702,696 | 709,596 | 3,104,015 | 8,313,419 |
| 一般財源 | 計画額 | 832,000 | 832,000 | 832,000 | 2,496,000 | 829,000 | 829,000 | 829,000 | 2,487,000 | 796,000 | 796,000 | 796,000 | 796,000 | 3,184,000 | 8,167,000 | |
| | 予算計上額 | 832,000 | 831,200 | 824,365 | 2,487,565 | 829,000 | 829,000 | 793,845 | 2,451,845 | 797,000 | 764,000 | 590,000 | 595,000 | 2,746,000 | 7,685,410 | |
| | 実績額 | 831,120 | 820,731 | 824,286 | 2,476,137 | 828,800 | 803,667 | 793,845 | 2,426,312 | 794,723 | 665,477 | 588,126 | 593,901 | 2,642,227 | 7,544,676 | |
| 事業費合計 | 計画額 | 4,156,000 | 4,156,000 | 4,156,000 | 12,468,000 | 4,187,000 | 4,187,000 | 4,187,000 | 12,561,000 | 4,071,000 | 4,071,000 | 4,071,000 | 4,071,000 | 16,284,000 | 41,313,000 | |
| | 予算計上額 | 4,156,000 | 4,156,000 | 4,174,000 | 12,486,000 | 4,187,000 | 4,187,000 | 4,071,000 | 12,445,000 | 4,076,000 | 3,960,000 | 3,057,000 | 3,086,000 | 14,179,000 | 39,110,000 | |
| | 実績額 | 4,155,600 | 4,155,600 | 4,173,600 | 12,484,800 | 4,186,800 | 4,069,200 | 4,071,000 | 12,327,000 | 4,075,500 | 3,457,015 | 3,055,200 | 3,085,200 | 13,672,915 | 38,484,715 | |
| 事業費予算の内容 | 委託料 | 委託料 | 委託料 | | 委託料 | 委託料 | 委託料 | | 委託料 | 委託料 | 委託料 | 委託料 | | | | |
| | 前年度予算との比較 (増減理由) | 管理戸数の増加により増額 | 前年度同額 | 除雪単価改定により増額 | | 除雪単価改定により増額 | 前年度同額 | 業務時間の見直しによる減 | | 除雪単価改定により増額 | 業務時間の見直しによる減 | 管理住宅1棟が廃止されたことによる減 | 増税により増額 | | | |
| | 実績との比較 (増減理由) | 同額 | 同額 | 同額 | | 同額 | 業務時間の見直しによる減 3月補正 △117千円 | 同額 | | 同額 | 管理住宅廃止による減 3月補正 △502千円 | 予算調整による減 3月補正 △1千円 | 同額 | | | |

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

| 活動指標 1 (「手段」をもとに設定) | | 指標名：事業実施日数 | | | | 指標の求め方：事業実施日数 | | | | | | | | | |
|--------------------------------|--|--|--|--|---|---|---|---|---|--|---|---|---|---|---------|
| 成果指標 1 (「成果」をもとに設定) | | 指標名：対象戸数 | | | | 指標の求め方：対象戸数 | | | | | | | | | |
| 指標 | 活動指標 1 (単位/日) | 計画値 | 312 | 312 | 312 | | 312 | 312 | 312 | | 312 | 312 | 312 | 312 | |
| | | 実績値 | 312 | 312 | 312 | | 312 | 312 | 312 | | 312 | 312 | 312 | 312 | |
| 指標 | 成果指標 1 (単位/戸) | 計画値 | 70 | 70 | 70 | | 70 | 70 | 70 | | 70 | 70 | 70 | 70 | |
| | | 実績値 | 70 | 70 | 70 | | 70 | 70 | 70 | | 70 | 70 | 45 | 45 | |
| 事業 評価 内容 | 事業の達成度 (活動指標をもとに評価) | | | | | 達成されている | | | | | 達成されている | | | | 達成されている |
| | 事業の成果 (成果指標をもとに評価) | | | | | 変わらない | | | | | 変わらない | | | | 変わらない |
| | 事業の効率性 (事業費に対する成果) | | | | | 変わらない | | | | | 変わらない | | | | 変わらない |
| | 総合評価 | | | | | 普通である | | | | | 普通である | | | | 普通である |
| | 総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析 | 自己分析：活動指標及び成果指標とも計画値と同数である。安否確認及び生活相談等を行うことにより、入居高齢者が安心して生活を送る環境が保たれている。 | 自己分析：活動指標及び成果指標とも計画値と同数である。安否確認及び生活相談等を行うことにより、入居高齢者が安心して生活を送る環境が保たれている。 | 自己分析：活動指標及び成果指標とも計画値と同数である。安否確認及び生活相談等を行うことにより、高齢者が安心して生活を送る環境が保たれている。しかし、一部の高齢者のみが特定のサービスを受ける現状は是正する必要がある。次期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画においてサービスの在り方を見直す。 | 判断理由：安否確認及び生活相談等を行うことにより、入居高齢者が安心して生活を送る環境が保たれているが、成果及び効率性は変わらないことから、普通と判断した。 | 自己分析：活動指標及び成果指標とも計画値と同数である。安否確認及び生活相談等を行うことにより、入居高齢者が安心して生活を送る環境が保たれている。しかし、一部の高齢者のみが特定のサービスを受ける現状は是正する必要がある。第7期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画においてサービスの在り方を見直す。 | 自己分析：活動指標及び成果指標とも計画値と同数である。安否確認及び生活相談等を行うことにより、入居高齢者が安心して生活を送る環境が保たれている。しかし、一部の高齢者のみが特定のサービスを受ける現状は是正する必要がある。第7期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画においてサービスの在り方を見直す。 | 自己分析：活動指標及び成果指標とも計画値と同数である。安否確認及び生活相談等を行うことにより、入居高齢者が安心して生活を送る環境が保たれている。しかし、一部の高齢者のみが特定のサービスを受ける現状は是正する必要がある。第7期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画においてサービスの在り方を見直す。 | 判断理由：安否確認及び生活相談等を行うことにより、入居高齢者が安心して生活を送る環境が保たれているが、成果及び効率性は変わらないことから、普通と判断した。 | 自己分析：活動指標及び成果指標とも計画値と同数である。安否確認及び生活相談等を行うことにより、入居高齢者が安心して生活を送る環境が保たれている。しかし、一部の高齢者のみが特定のサービスを受ける現状は是正する必要がある。サービスの見直す。 | 自己分析：活動指標及び成果指標とも計画値と同数である。実績値については管理住宅一棟が廃止になったことから計画値を下回ったものの、安否確認及び生活相談等を行うことにより、高齢者が安心して生活を送る環境が保たれている。 | 自己分析：活動指標及び成果指標とも計画値と同数である。実績値については管理住宅一棟が廃止になったことから計画値を下回ったものの、安否確認及び生活相談等を行うことにより、高齢者が安心して生活を送る環境が保たれている。 | 自己分析：活動指標及び成果指標とも計画値と同数である。実績値については管理住宅一棟が廃止になったことから計画値を下回ったものの、安否確認及び生活相談等を行うことにより、高齢者が安心して生活を送る環境が保たれている。 | 判断理由：安否確認及び生活相談等を行うことにより、入居高齢者が安心して生活を送る環境が保たれているが、成果及び効率性は変わらないことから、普通と判断した。 | |
| 今後の方向性 | | | | | 現状のまま継続 | | | | | 現状のまま継続 | | | | 現状のまま継続 | |
| 方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30) | H25：安否確認及び生活相談等を行うことにより、入居高齢者が安心して生活を送る環境が保たれていることから、当面は現状のまま継続とする。高齢者の増加に伴い、高齢者専用住宅に入居する高齢者とそれ以外（持家、借家、一般公営住宅等）に居住する高齢者に大きな差がみられなくなっており、高齢者専用住宅入居者に対して特定のサービスを提供する現状は、介護保険法上は是正する必要がある。次期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定時にサービスの在り方を検討する。 | | | | H28：安否確認及び生活相談等を行うことにより、入居高齢者が安心して生活を送る環境が保たれていることから、当面は現状のまま継続とする。高齢者の増加に伴い、高齢者専用住宅に入居する高齢者とそれ以外（持家、借家、一般公営住宅等）に居住する高齢者に大きな差がみられなくなっており、高齢者専用住宅入居者に対して特定のサービスを提供する現状は、介護保険法上は是正する必要がある。第7期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定時にサービスの在り方を検討する。 | | | | H30：安否確認及び生活相談等を行うことにより、入居高齢者が安心して生活を送る環境が保たれていることから、当面は現状のまま継続とする。高齢者の増加に伴い、高齢者専用住宅に入居する高齢者とそれ以外（持家、借家、一般公営住宅等）に居住する高齢者に大きな差はみられなくなっているが、高齢者専用住宅のニーズは依然として高いことから、現状のまま継続とする。 | | | | | | |

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

| 活動指標 1 (「手段」をもとに設定) | | 指標名：事業費 | | | | 指標の求め方：事業費 | | | | | | | | |
|---------------------|-------------------------------|--|---|---|--|--|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 成果指標 1 (「成果」をもとに設定) | | 指標名：利用者数 | | | | 指標の求め方：利用者数 | | | | | | | | |
| 指標 | 活動指標 1 (単位/千円) | 計画値 | 5,854 | 5,854 | 5,854 | 5,854 | 5,854 | 5,854 | 5,854 | 5,854 | 5,854 | 5,854 | 5,854 | |
| | | 実績値 | 4,871 | 5,068 | 4,968 | 4,502 | 4,070 | 5,220 | 6,835 | 7,076 | 9,645 | 9,595 | | |
| 指標 | 成果指標 1 (単位/人) | 計画値 | 55 | 55 | 55 | 55 | 55 | 55 | 55 | 55 | 55 | 55 | 55 | |
| | | 実績値 | 62 | 67 | 55 | 61 | 98 | 111 | 133 | 139 | 128 | 130 | | |
| 事業 評価 | 事業の達成度 (活動指標をもとに評価) | | | | あまり達成されていない | | | | ほぼ達成されている | | | | ほぼ達成されている | |
| | 事業の成果 (成果指標をもとに評価) | | | | 少し上がっている | | | | 上がっている | | | | 上がっている | |
| | 事業の効率性 (事業費に対する成果) | | | | 変わらない | | | | 上がっている | | | | 上がっている | |
| | 総合評価 | | | | 良好である | | | | 極めて良好である | | | | 極めて良好である | |
| | 評価内容 | 総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析 | 自己分析： 民間業者による食事業宅配など食事確保の選択肢が増え、全体食費が減少し事業費は計画値を下回っているが、新規申請者の増加により利用者数は計画値を上回っている。食事の提供と安否確認により、在宅生活の支援が図られている。 | 自己分析： 民間業者による食事業宅配など食事確保の選択肢が増え、事業費は計画値を下回っているが、新規申請者の増加により利用者数は計画値を上回っている。食事の提供と安否確認により、在宅生活の支援が図られている。 | 自己分析： 事業費は計画値を下回っているが、利用者数は計画値と同数になっている。食事の提供と安否確認により、在宅生活の支援が図られている。平成25年度より対象者の拡大を図っており、事業内容の見直しを行い、平成26年度中又は27年度当初に新しい内容に移行する。 | 判断理由： 事業費及び利用者数ともに前年度より増加しており、安否確認により高齢者の見守りにつながる事業であることから、良好と判断した。 | 自己分析： 事業費は計画値を下回っているが、利用者数は計画値を上回っている。食事の提供と安否確認により、在宅生活の支援が図られている。平成25年度より対象者の拡大を図っており、事業内容の見直しを行い、平成27年度から新しい内容に移行することとした。 | 自己分析： 平成27年度は事業見直し(委託変更)により利用者負担金は事業者の収入としたことから、事業費は計画値を下回っているが、利用者数は計画値を大幅に上回っており、食事の提供と安否確認により、在宅生活の支援が図られている。 | 自己分析： 平成27年度の事業見直し(委託変更)により利用者負担金は事業者の収入としたことから、事業費は計画値を下回っているが、利用者数は計画値を大幅に上回っており、食事の提供と安否確認により、在宅生活の支援が図られている。 | 判断理由： 事業の見直しにより利用者数が大幅に増加しており、安否確認により高齢者の見守りにつながる事業であることから、極めて良好と判断した。 | 自己分析： 事業見直し(委託変更)により利用者負担金は事業者の収入としたことに加え、利用者数は計画値を大幅に上回っており、食事の提供と安否確認により、在宅生活の支援が図られている。 | 自己分析： 事業見直し(委託変更)により利用者負担金は事業者の収入としたことに加え、利用者数は計画値を大幅に上回っており、食事の提供と安否確認により、在宅生活の支援が図られている。 | 自己分析： 事業見直し(委託変更)により利用者負担金は事業者の収入としたことに加え、利用者数は計画値を大幅に上回っており、食事の提供と安否確認により、在宅生活の支援が図られている。 | 自己分析： 事業見直し(委託変更)により利用者負担金は事業者の収入としたことに加え、利用者数は計画値を大幅に上回っており、食事の提供と安否確認により、在宅生活の支援が図られている。 |
| | 今後の方向性 | | | | 手段の見直し | | | | 現状のまま継続 | | | | 現状のまま継続 | |
| | 方向性の判断理由改善、改革の内容(H25、H28、H30) | H25： 今後、利用者の増を図ろうとする場合、現在の調理業者で対応可能か、またボランティアの協力により食事の配達及び安否確認を行っているが、一部ボランティアに負担がかかっている点など、市直営による事業実施も含めて事業全体について平成25年度中に見直しを行う。 | | | | H28： 平成27年度から市直営による事業実施に変更し、民間事業者に業務委託をし、利用者負担金の軽減や利用者が自ら配食事業者の選択するなど利用拡大に取り組んだ結果、利用者が大幅に増加していることから、現状のまま継続とした。 | | | | H30： 平成27年度から市直営による事業実施に変更し、民間事業者に業務委託をし、利用者負担金の軽減や利用者が自ら配食事業者を選択するなどの利用拡大に取り組んだ結果、利用者が大幅に増加し続けていることから、現状のまま継続とした。 | | | | |

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|----|--------|-----|--------------|-----------------|------------------------|---|--|---|---|---|------|-------------|--|
| 事業名 | 高齢者等位置情報提供サービス利用助成事業 | | | | 事業期間 | 平成 22 年度 ～ ー 年度 | | | | | | | 所管課係 | 介護福祉課高齢者支援係 | |
| 事業性質区分 | 新規・継続 | 継続 | 建設・建設外 | 建設外 | 第6期総合計画の位置付け | 2-1-3 | 他に関連する基本事業 | ー | ー | ー | ー | ー | ー | ー | |
| 目的 (何のために実施するのか) | 位置情報提供サービスを利用することにより、徘徊高齢者等の早期発見及び安全確保を図るとともに、介護者の精神的・経済的負担の軽減を図る。 | | | | | | 手段 (どのような方法で実現するのか) | | GPS方式による位置情報提供サービスを利用する場合の初期費用を助成する。 | | | | | | |
| 対象 (誰・何を対象としているのか) | 次に該当する在宅の者の介護者。 1 介護保険法に規定する日常生活自立度判定基準Ⅱ以上の者または診断により認知症と認められた者 2 知的障がいを有し、診断により行動障がいと認められた者 | | | | | | 成果 (どのような効果が得られるのか) | | 徘徊高齢者等を早期発見することにより事故を未然に防ぎ、介護者の負担が軽減される。 | | | | | | |
| 事業開始時の状況・これまでの経緯（行内内容含む） | 認知症等により徘徊し過去には死に至る事案が発生しており、今後も認知症者の増加が予測されていることから、平成22年度より事業を開始した。介護保険特別会計 地域支援事業（任意事業）として実施している。 | | | | | | | | | | | | | | |

【DO】

実績

(単位：円)

| | | 第1次実施3カ年計画 | | | | 第2次実施3カ年計画 | | | | 第3次実施4カ年計画 | | | | 第6期総合計画 | | |
|-------------|---------------------|-----------------------|--------------------------|--------------------------|-------------|----------------------|----------------|----------------|-------------|----------------|----------------|----------------------|----------------------|---------|-------------|---------|
| | | 第1年次 (23年度) | 第2年次 (24年度) | 第3年次 (25年度) | 実施3カ年 合計 | 第4年次 (26年度) | 第5年次 (27年度) | 第6年次 (28年度) | 実施3カ年 合計 | 第7年次 (29年度) | 第8年次 (30年度) | 第9年次 (31・R元年度) | 第10年次 (R2年度) | | 実施4カ年 合計 | |
| 投入された事業費の推移 | 国費 | 計画額 | 29,000 | 29,000 | 29,000 | 87,000 | 15,000 | 15,000 | 15,000 | 45,000 | 15,000 | 15,000 | 15,000 | 15,000 | 60,000 | 192,000 |
| | | 予算計上額 | 29,000 | 29,600 | 29,230 | 87,830 | 15,000 | 15,000 | 15,000 | 45,000 | 15,000 | 14,000 | 14,000 | 15,000 | 58,000 | 190,830 |
| | | 実績額 | 0 | 2,903 | 5,806 | 8,709 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 道費 | 計画額 | 15,000 | 15,000 | 15,000 | 45,000 | 7,000 | 7,000 | 7,000 | 21,000 | 7,000 | 7,000 | 7,000 | 7,000 | 28,000 | 94,000 |
| | | 予算計上額 | 15,000 | 14,800 | 14,615 | 44,415 | 7,000 | 7,000 | 7,000 | 21,000 | 7,000 | 7,000 | 7,000 | 7,000 | 28,000 | 93,415 |
| | | 実績額 | 0 | 1,451 | 2,903 | 4,354 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 地方債 | 計画額 | | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | | 予算計上額 | | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | | 実績額 | | | | 0 | | | | 0 | | | | | 0 | 0 |
| | その他 | 計画額 | 15,000 | 15,000 | 15,000 | 45,000 | 7,000 | 7,000 | 7,000 | 21,000 | 7,000 | 7,000 | 7,000 | 7,000 | 28,000 | 94,000 |
| | | 予算計上額 | 15,000 | 14,800 | 15,540 | 45,340 | 7,000 | 7,000 | 7,000 | 21,000 | 7,000 | 8,000 | 8,000 | 8,000 | 31,000 | 97,340 |
| | | 実績額 | 0 | 1,543 | 3,087 | 4,630 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4,630 |
| 一般財源 | 計画額 | 15,000 | 15,000 | 15,000 | 45,000 | 9,000 | 9,000 | 9,000 | 27,000 | 9,000 | 9,000 | 9,000 | 9,000 | 36,000 | 108,000 | |
| | 予算計上額 | 15,000 | 14,800 | 14,615 | 44,415 | 9,000 | 9,000 | 9,000 | 27,000 | 9,000 | 9,000 | 9,000 | 9,000 | 36,000 | 107,415 | |
| | 実績額 | 0 | 1,453 | 2,904 | 4,357 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4,357 | |
| 事業費合計 | 計画額 | 74,000 | 74,000 | 74,000 | 222,000 | 38,000 | 38,000 | 38,000 | 114,000 | 38,000 | 38,000 | 38,000 | 38,000 | 152,000 | 488,000 | |
| | 予算計上額 | 74,000 | 74,000 | 74,000 | 222,000 | 38,000 | 38,000 | 38,000 | 114,000 | 38,000 | 38,000 | 38,000 | 39,000 | 153,000 | 489,000 | |
| | 実績額 | 0 | 7,350 | 14,700 | 22,050 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 22,050 | |
| 事業費予算の内容 | 補助金 | 7,350円×10件 | 7,350円×10件 | 7,350円×10件 | | 7,560円×5件 | 7,560円×5件 | 7,560円×5件 | | 7,560円×5件 | 7,560円×5件 | 7,560円×5件 | 7,700円×5件 | | | |
| | 前年度予算との比較 (増減理由) | 前年度同額 | 前年度同額 | 前年度同額 | | 申請見込件数の減、単価変更は消費税増税分 | 前年度同額 | 前年度同額 | | 前年度同額 | 前年度同額 | 前年度同額 | 単価変更は消費税増税分 | | | |
| | 実績との比較 (増減理由) | 申請0件 3月補正 △59千円 | 申請見込数の減 3月補正 △51千円 | 申請見込数の減 3月補正 △37千円 | | 申請0件 | 申請0件 | 申請0件 | | 申請0件 | 申請0件 | 申請0件 3月補正 △7千円 | 申請0件 3月補正 △8千円 | | | |

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

| 活動指標 1 (「手段」をもとに設定) | | 指標名：補助金額 | | | | 指標の求め方：補助金額 | | | | | | | | |
|---------------------|--------------------------------|--|---|---|--|---|--|---|---|--|---|---|---|--|
| 成果指標 1 (「成果」をもとに設定) | | 指標名：申請件数 | | | | 指標の求め方：申請件数 | | | | | | | | |
| 指標 | 活動指標 1 (単位/千円) | 計画値 | 74 | 74 | 74 | | 74 | 74 | 74 | | 74 | 74 | 74 | 74 |
| | | 実績値 | 0 | 8 | 15 | | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 指標 | 成果指標 1 (単位/件) | 計画値 | 10 | 10 | 10 | | 10 | 10 | 10 | | 10 | 10 | 10 | 10 |
| | | 実績値 | 0 | 1 | 2 | | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 事業 業務 評価 | 事業の達成度 (活動指標をもとに評価) | | | | | あまり達成されていない | | | | | 達成されていない | | | 達成されていない |
| | 事業の成果 (成果指標をもとに評価) | | | | | 少し上がっている | | | | | 上がっていない | | | 上がっていない |
| | 事業の効率性 (事業費に対する成果) | | | | | 変わらない | | | | | 上がっていない | | | 上がっていない |
| | 総合評価 | | | | | 普通である | | | | | 問題がある | | | 問題がある |
| | 評価内容 | 総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析 | 自己分析：相談はあったが申請には至っていない。これまで持ち歩いている発信機を対象高齢者等に所持させるかどうかを考慮して申請しないケースがある。 | 自己分析：行方不明となったことのある高齢者の介護者から1件の申請があった。GPS発信機により位置を限定できるので、捜索において有効であり、事業により介護者の負担軽減となっている。 | 自己分析：行方不明となったことのある高齢者の介護者から2件の申請があった。GPS発信機により位置を限定できるので、捜索に役立っている。ただし、GPS発信機を常時所持させることに苦慮するケースもあることから、行方不明の状況等を確認し、他の有効な方法について調査検討が必要である。 | 判断理由：介護者の負担軽減につながるが、申請は1件にとどまっていることから、普通と判断した。 | 自己分析：相談はあったが申請には至っていない。これまで持ち歩いている発信機を対象高齢者等に所持させるかどうかを考慮して申請しないケースも目立った。有効な手段については模索している段階があるが、高齢者見守り事業の推進も鑑みながら継続して検討する。 | 自己分析：27年度も相談はあったが申請には至っていない。これまで持ち歩いている発信機を対象高齢者等に所持させるかどうかを考慮して申請しないケースも目立った。有効な手段については模索している段階があるが、高齢者見守り事業の推進も鑑みながら継続して検討する。 | 自己分析：28年度も相談はあったが申請には至っていない。これまで持ち歩いている発信機を対象高齢者等に所持させるかどうかを考慮して申請しないケースも目立った。有効な手段については模索している段階があるが、高齢者見守り事業の推進も鑑みながら継続して検討する。 | 判断理由：認知症の方の家族介護者の負担軽減につながるが、申請に至っていない状況が続いており、今後利用拡大につながる有効な方法を検討する必要があるため、問題があると判断した。 | 自己分析：29年度も相談はあったが申請には至っていない。これまで持ち歩いている発信機を対象高齢者等に所持させるかどうかを考慮して申請しないケースも目立った。有効な手段については模索している段階があるが、高齢者見守り事業の推進も鑑みながら継続して検討する。 | 自己分析：30年度も相談はあったが申請には至っていない。これまで持ち歩いている発信機を対象高齢者等に所持させるかどうかを考慮して申請しないケースも目立った。有効な手段については模索している段階であるが、高齢者見守り事業の推進も鑑みながら継続して検討する。 | 自己分析：31年度も相談はあったが申請には至っていない。これまで持ち歩いている発信機を対象高齢者等に所持させるかどうかを考慮して申請しないケースも目立った。有効な手段については模索している段階であるが、高齢者見守り事業の推進も鑑みながら継続して検討する。 | 自己分析：2年度も相談はあったが申請には至っていない。これまで持ち歩いている発信機を対象高齢者等に所持させるかどうかを考慮して申請しないケースも目立った。有効な手段については模索している段階であるが、高齢者見守り事業の推進も鑑みながら継続して検討する。 |
| | 今後の方向性 | | | | 現状のまま継続 | | | | 手段の見直し | | | | | 手段の見直し |
| | 方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30) | H25：事業開始の平成22年度から24年度までの累計申請数は3件であり見込を下回っているが、事業の周知に努め、現状のまま継続する。なお、徘徊高齢者等がGPS発信機を持たずに外出してしまうことがあるため、発信機を常時所持させる方法に苦慮しているケースがある。GPS携帯電話等の機器の利用も検討する。 | | | | H28：この2年間は相談はあるが申請に至っていない状況が続いており、今後利用拡大につながる有効な方法を検討する必要があるため、手段の見直しが必要と判断した | | | | H30：過去5年間は相談はあるが申請に至っていない状況が続いており、今後利用拡大につながる有効な方法を検討する必要があるため、手段の見直しが必要と判断した。 | | | | |